



www.hakodate-otani.ac.jp



HAKODATE OTANI COLLEGE

講義概要 2021 こども学科 1年

こども学科

＜教育目的＞

保育者として必要な基礎知識、技能を学ぶと同時に、職業人としての人格向上を目指し、すべての人に対してあたたかな心と優しさを持ち、ともに育ちあうことを大切にする人間性豊かな保育者・支援者の育成を目的とする。

＜教育目標＞

1. **〔多様な専門性を身につけた保育者の養成〕**
社会や地域、時代のニーズにあった知識・技術を習得するための教育を実施する。
2. **〔人を育てる人・支援する人として社会性を持った保育者の養成〕**
他と協調できる良好な人間関係の構築を目指したコミュニケーション能力の育成を目指すと同時に、社会人としての人間形成に努める。
3. **〔心豊かに表現し主体的で行動力のある保育者の養成〕**
様々な活動体験・表現活動を通して、多様な価値観や豊かな生活力を育む。

＜学習成果＞

1. 保育の内容・方法を理解し、子どもの実態に応じた保育方法を探究できる。
2. 子どもの理解に基づいてコミュニケーションをとることができ、主体的行動がとれる。
3. 豊かな表現力を持って、子どもの理解と支援ができる。
4. 保育教諭としての資質を身につけ、専門職として地域に貢献できる。

＜卒業認定・学位授与の方針＞

学則に基づき、修業年限以上在籍し所定の単位数を修得するとともに、以下の素養を身につけた学生に対して短期大学士の称号を授与します。

1. 保育の内容や方法を習得すると同時に、様々な子どもに対応できる人間性を獲得する。
2. 子どもの実態を理解し、豊かな表現力・コミュニケーションによって、主体的・積極的に子どもの活動を支援できる。
3. 地域からの要望や地域の活動に貢献する奉仕の精神を持ち、総合的な人間力や保育者としての資質の向上を継続的に図ることができる。

〔講義概要〕

授 業

- (1) 授業はすべて教育課程に基づいて実施する。
- (2) 授業は集中講義及び休業日に実施する科目を除き、すべて時間割に従って実施する。
- (3) 時間割は教育課程に基づき、学期毎に編成する。
- (4) 時間割や教室の変更は教務の承認を得なければならない。
- (5) 各講義の開講は次のとおりとする。

2021年 こども学科カリキュラム (2021 年度入学者)

分類	科 目	科目 No.	実務経験 のある教 員による 授業科目	授業 区分	単 位	授業 形態	時 間	2021 年(1 年)		2022 年(2 年)		卒業 要件	幼 免	保 育士	社会福祉主事(任)
								前期	後期	前期	後期				
教養教育科目	人 間 学 I	E101		講義	2	合同	2	2				◎		◎	
	人 間 学 II	E102		講義	2	合同	2		2			△		○	
	こ こ ろ の 科 学	E103		講義	2	合同	2	2				△		◎	
	日 本 国 憲 法	E104		講義	2	合同	2	2				△	◎	○	
	障 害 者 福 祉 論	E105		講義	2	分離	2				2	△		○	◎
	現 代 地 域 学 論	E106		講義	2	集中	2					△			
	情 報 処 理 演 習	E107		演習	2	分離	2	2				△	◎	○	
	英 語	E201		演習	2	合同	2		2			△		◎	
	英 会 話	E202		演習	2	分離	2	2				△	◎	○	
	健 康 科 学 論	E301		講義	1	合同	1	1				△	◎	◎	
	健 康 と ス ポ ー ツ	E302		実習	1	合同	3	3				△	◎	◎	
専門教育科目	幼 児 音 楽	S301		演習	2	分離	2	2				◎	◎	◎	
	保 育 音 楽	S302		演習	1	分離	2		2			○		◎	
	音 楽 表 現 演 習 I	S303		演習	1	分離	2			2		◎		◎	
	音 楽 表 現 演 習 II	S304		演習	1	分離	2				2	○		◎	
	音 楽 実 践	S305		演習	1	分離	2		2			○		◎	
	幼 児 美 術	S306		演習	2	分離	2	2				◎	◎	◎	
	保 育 造 形	S307		演習	1	分離	2		2			○		◎	
	幼 児 体 育	S308		演習	2	分離	2			2		◎	◎	◎	
	保 育 体 育	S309		演習	1	分離	2				2	○		◎	
	基 礎 国 語	S101		講義	2	合同	2	2				○	◎	◎	
	児 童 文 化 I	S102		講義	2	合同	2			2		◎		◎	
	社 会 福 祉	S103	●	講義	2	合同	2	2				○		◎	◎
	保 育 の 心 理 学	S201		講義	2	合同	2		2			○		◎	
	子ども家庭支援の心理学	S202		講義	2	合同	2			2		○		◎	
	子 育 て 支 援	S203		演習	1	分離	2		2			○		◎	
	子 ど も 家 庭 福 祉	S204		講義	2	合同	2		2			◎		◎	
	子 ど も 家 庭 支 援 論	S205		講義	2	合同	2				2	○		◎	
	保 育 原 理	S104		講義	2	合同	2	2				◎		◎	◎
	保 育 原 理 II	S105		講義	2	合同	2				2	○		◎	
	社 会 的 養 護 I	S106		講義	2	合同	2		2			○		◎	
	社 会 的 養 護 II	S107		演習	1	合同	2			2		○		◎	
	保 育 実 習 指 導 I	S401		演習	2	分離	4		4			○		◎	
	保 育 実 習 指 導 II	S402		演習	1	合同	1			1		○		◎	
	保 育 実 習 指 導 III	S403		演習	1	合同	1			1		○		◎	
	保 育 実 習 I	S404		実習	4	集中	12		6	6		○		◎	
	保 育 実 習 II	S405		実習	2	集中	6			6		○		◎	
	保 育 実 習 III	S406		実習	2	集中	6			6		○		◎	
	子 ど も の 保 健	S206		講義	2	合同	2			2		◎		◎	
	子 ど も の 食 と 栄 養	S207		演習	2	分離	2	2				○		◎	
	子どもの健康と安全	S208		演習	1	分離	2				2	◎		◎	
	乳 児 保 育 I	S209		講義	2	合同	2	2				○		◎	
	乳 児 保 育 II	S210		演習	1	分離	2		2			○		◎	

分類	科 目	科目 No.	実務経験 のある教 員による 授業科目	授業 区分	単 位	授業 形態	時 間	2021 年(1年)		2022 年(2年)		卒業 要件	幼 免	保 育 士	社会福祉主事(任)
								前期	後期	前期	後期				
専門 教育科目	特別支援教育「基礎」	S108		演習	2	合同	2			2		○	◎	◎	
	教育カウンセリング	S109		講義	2	合同	2			2		○	◎		
	教 育 原 理	S110		講義	2	合同	2	2				◎	◎	◎	◎
	保 育 者 ・ 教 師 論	S111		講義	2	合同	2				2	○	◎	◎	
	幼 児 理 解 の 理 論	S112		講義	2	合同	2		2			○	◎	◎	
	保 育 内 容 総 論	S211		演習	2	合同	2		2			○	◎	◎	
	教 育 心 理 学	S113	●	演習	1	合同	2	2				◎	◎	◎	
	教 育 財 政 学	S114		講義	1	合同	1			1		○	◎		
	教 育 課 程 論	S115		講義	2	合同	2		2			○	◎	◎	
	保育内容研究Ⅰ（人間関係）	S310		演習	2	合同	2				2	◎	◎	◎	
	保育内容研究Ⅱ（言葉）	S311		演習	2	合同	2	2				◎	◎	◎	
	保育内容研究Ⅲ（環境）	S312	●	演習	2	分離	2	2				◎	◎	◎	
	保育内容研究Ⅳ（健康）	S313		演習	2	合同	2			2		◎	◎	◎	
	保育内容研究Ⅴ（表現）	S314		演習	2	分離	2			2		◎	◎	◎	
	保育内容指導Ⅰ（健康）	S315		演習	2	分離	2				2	○	◎	◎	
	保 育 内 容 指 導 Ⅱ （人間関係・言葉・表現）	S316		演習	2	分離	2			2		○	◎	◎	
	保育内容指導Ⅲ（環境）	S317	●	演習	2	合同	2		2			○	◎	◎	
	教 育 方 法 論	S116		講義	2	合同	2		2			○	◎		
	教育実習事前事後指導	S407		演習	1	合同	2	1		1		○	◎		
	教 育 実 習	S408		実習	3	集中	9				9	○	◎		
	こども園・幼稚園体験活動	S409		実習	1	集中	3	3				○	◎		
	保育・教職実践演習（幼稚園）	S410		演習	2	分離	2				2	○	◎	◎	
	ピ ア ノ 表 現 法 Ⅰ	S318		演習	1	分離	2	1	1			○			
	ピ ア ノ 表 現 法 Ⅱ	S319		演習	1	分離	2			1	1	○			

◎印は卒業及び、幼免・保育士の必修科目です。

卒業するためには、その他に△印の中から 12 単位以上、○印の中から 23 単位以上履修すること。保育士の資格を取得する学生は、○印の中から選択必修。

※実習履修について

—教育実習（幼稚園本実習）—

教育実習（本実習）は、実習前において開講している学則必修科目および幼稚園教諭二種免許状取得科目に関して未修得がある場合、または修得見込みが立たない場合は教育実習（本実習）を履修することはできない。

実習中止および実習成績「不可」、再実習、実習延長等については、「実習中止・再実習等に関する学科規程」に別途定める。

—保育実習（保育園・施設）—

実習前において開講されている学則必修科目、および保育士資格取得科目に関して未修得がある場合、または修得の見込みが立たない場合、保育実習を履修することはできない。

実習中止および実習成績「不可」、再実習、実習延長等については、「実習中止・再実習等に関する学科規程」に別途定める。

保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの実習期間、時間数については、各々概ね 10 日間 80 時間以上とする。

こども学科コース選択科目

分類	科 目	科目 No.	実務経験 のある教 員による 授業科目	授業 区分	単 位	授業 形態	時 間	2021 年(1年)		2022 年(2年)		備 考
								前期	後期	前期	後期	
幼児教育	こ だ も の 造 形 と 遊 び	S501		演習	1	幼教	2			2		
	こ だ も の 音 楽 と 遊 び	S502		演習	1	幼教	2			2		
	こ だ も の 健 康 と 遊 び	S503		演習	1	幼教	2				2	
保育福祉	社 会 福 祉 法 制	S601		講義	2	保福	2			2		社会福祉主事(任)
	ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 論	S602		講義	2	保福	2				2	
	福祉住環境コーディネーターⅠ	S603		演習	1	保福	2			2		
保育心理	教育カウンセリング心理学	S701		演習	1	保心	2				2	
	セ ラ ピ ー 概 論	S702		講義	2	保心	2			2		
	保 育 心 理 演 習	S703		演習	1	保心	2			2		

自由選択科目

※自由選択科目の単位は卒業単位数には算入しない。

分類	科 目	科目 No.	実務経験 のある教 員による 授業科目	授業 区分	単 位	授業 形態	時 間	2021 年(1年)		2022 年(2年)		備 考
								前期	後期	前期	後期	
	幼 児 総 合 研 究	F101		演習	2	合同	4	2			集中	
	国 際 保 育 理 解	F102		演習	1	合同	2		集中			海外研修
	ウ イ ン タ ー ス ポ ー ツ	F103		演習	1	合同	2				集中	

●実務経験のある教員による授業科目の単位合計数 : 7 単位

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
人 間 学 I		教養教育 科 目	講 義	2	E101		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
福 島 重		1	前 期	必 修	幼	保	社
					◎		
授業概要	人間学とは、「自分と向き合う」学問である。人間の根源的痛みや、現代社会が抱える問題を深く考えることは、そこに生活する「自分自身」をみていくことに繋がっていく。この授業では、その「自分とは何か」を探るための道標として仏教を用い、それをもとに洞察力・考察力を養う。						
到達目標	自分自身を見つめることができる洞察力・考察力を身に着けることを目標とする。						
授業の方法	授業は、基本的には板書をもとに進めるが、授業内容によって、あるいは受講生の理解度によって、アクティブラーニング形式を導入する。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	予習は必要ないが、毎回、前回の復習をしてから授業に臨むこと（15分）。						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	人間にとって恋愛とは？				
2	「人間学」とは何なのか？	10	自我と利他				
3	仏教では「死」をどう受け止めるのか？	11	人間と災害				
4	仏教では「病」をどう受け止めるのか？	12	異文化とは何か？				
5	仏教では「老」をどう受け止めるのか？	13	仏教と社会 ①差別について				
6	仏教では「生」をどう捉えるのか？	14	仏教と社会 ②身近な差別				
7	人間は弱い生き物なのか？	15	人間の真の幸福とは？				
8	仏教における「欲」と社会における「欲」						
教科書・参考文献	特になし						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	授業時の発問や不定期に行う小テストで、学生の理解度を確認し、不足があればその都度、詳説する。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	成績は、小テスト（40%）、期末テスト（60%）の絶対評価を基本とする。それに加えて授業目標への到達度を判断した上で単位を認定する。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
人 間 学 II		教養教育 科 目	講 義	2	E102		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
福 島 重		1	後 期	選 択	幼	保	社
						○	
授業概要	私たちは、これまで生きてきたなかで、気付かぬうちに様々な「文化」に触れてきた。なかには潜在的に持ち合わせているにも関わらず、私たち自身が気づいていない「文化」もある。本講座は、そのような「潜在的な文化認識」に焦点を当て、その淵源をたずね、考察していくことを通じて、自分が知らない「様々な文化によって構築されている自分自身」を知ることを目指す。						
到達目標	本講座では、様々な文化に触れることを通して、「文化への理解」を深めることを大きな目標とする。						
授業の方法	授業は、基本的には板書をもとに進めるが、授業内容によって、あるいは受講生の理解度によって、アクティブラーニング形式を導入する。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	予習は必要ないが、毎回、前回の復習をしてから授業に臨むこと（20分）。						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	近代文学のなかの日本文化①				
2	文化とはなにか？	10	絵本のなかの日本文化②				
3	宗教と潜在的意識	11	近代文学のなかの日本文化②				
4	遊びのなかの文化①	12	生活のなかの日本文化				
5	遊びのなかの文化②	13	外国文化と日本文化①				
6	遊びのなかの文化③	14	外国文化と日本文化②				
7	遊びのなかの文化	15	いかにして文化を伝えるか？				
8	絵本のなかの日本文化①						
教科書・参考文献	特になし						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	授業時の発問や不定期に行う小テストで、学生の理解度を確認し、不足があればその都度、詳説する。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	小テスト（40%）、期末テスト（60%）の絶対評価。それに加えて授業目標への到達度を判断した上で単位を認定する。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
こころの科学		教養教育 科 目	講 義	2	E103		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
阿 部 千 春		1	前 期	選 択	幼	保	社
						◎	
授業概要	本講義では、人の心のしくみを科学的に理解しようとする態度を養い、自己理解や子どもの理解と対応、保育・幼児教育にも関連づけて考えていくことを目的とします。						
到達目標	人の心のしくみや子どもの理解と対応について基本的な知識を習得することをめざします。						
授業の方法	講義資料を用い、講義形式で行います。授業内で行う試験を受験することが単位認定の必須条件となります。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	授業後は、講義資料を読んで復習し、学習した内容の要点をノートにまとめます。(20分程度)						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	集団の心理学とリーダーシップ理論				
2	科学としての心理学	10	感覚と知覚のメカニズム				
3	心理療法とカウンセリング	11	感情と情動				
4	生涯発達心理学① 乳幼児期～児童期	12	動機づけの心理学				
5	生涯発達心理学② 思春期～老年期	13	学習理論①				
6	パーソナリティ心理学	14	学習理論②				
7	対人関係の心理学①	15	講義総括				
8	対人関係の心理学②						
教科書・参考文献	教科書：なし・資料配付 参考文献：藤本忠明他編著「ワークショップ大学生活の心理学」ナカニシヤ出版						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	テスト解説を行うことで、誤答問題の見直しができるようにします。また、具体的な学習方法について提示します。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目です。						
成績評価の方法及び基準	成績評価は、授業内試験(80%)、授業後に提出する感想カード(20%)によって総合的に評価し、単位認定を行います。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
日本国憲法		教養教育 科 目	講 義	2	E104		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
伊 藤 泰		1	前 期	選 択	幼 ◎	保 ○	社 ○
授業概要	日本国憲法の学習領域中、主として人権分野について学ぶ。人権の歴史的展開をふまえて、個別の人権規定を中心に基本的な学説や判例を検討する。						
到達目標	本講義では、日本国憲法の内容について知り、特に人権についての知識を深めることを目的として、具体的な事例を交えつつ授業を行う。						
授業の方法	講義形式で行う。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	予習については、参考書等で次回の授業内容に関することがらを調べておくことが望ましい(30分)。復習については、受けた授業でとったノートの内容を振り返っておくことが望ましい(30分)。						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	表現の自由				
2	立憲主義と法の支配	10	経済的自由権				
3	国民主権の意味	11	社会権				
4	基本的人権という観念の特質	12	三権分立				
5	基本的人権の限界はどこにあるか?	13	議院内閣制				
6	幸福追求権	14	司法審査制				
7	法の下での平等	15	戦争と平和主義の理念				
8	内心の自由						
教科書・参考文献	なし						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	理解度を確認したうえで、定期的に解説を行う。						
卒業認定・学位授 与の方針との関連	当該学科の学卒業認定・位授与の方針「1」に該当する科目です。						
成績評価の方法及 び基準	期末定期試験のみの結果に基づき成績評価を行う。						
実務経験と担当科 目内容との関連							

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
情報処理演習		教養教育 科 目	演 習	2	E107		
		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
渋 田 昌 士		1	前 期	選 択	幼 ◎	保 ○	社 ○
授業概要	Microsoft Word, Excel, PowerPoint を使った演習です。その他パソコン (Windows) の基本操作, メールや情報リテラシーなどを学習します。						
到達目標	幼児教育者として必要な情報処理技能の習得。Word を使って見やすい文書さくせいができること。Excel を使ってデータ整理ができること。PowerPoint を使って発表ができること。メールの送受信ができること。						
授業の方法	毎回課題を出しそれに則した説明をしていきます。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	事前練習 (45 分) 事後練習 (90 分)						
履修条件	特にありません。						
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	Excel の基本操作①				
2	Windows の基本操作	10	Excel の基本操作②				
3	電子メールの設定と送受信	11	PowerPoint の基本操作①				
4	Word の基本操作①	12	PowerPoint の基本操作②				
5	Word の基本操作②	13	課題作成 ③				
6	課題作成 ①	14	課題発表 ①				
7	Word の応用操作	15	課題発表 ②				
8	課題作成 ②						
教科書・参考文献							
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	各回授業時に前回の振り返りを行う。課題に関しては合格ラインまで繰り返しの指導を取る。課題発表ではその場での指導を行う。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目です。						
成績評価の方法及び基準	通常点 (2, 3, 4, 5, 7, 9, 10, 11, 12 回×5%) 45% 課題①② (20%+20%) 40% 課題③および課題発表 15%						
実務経験と担当科目内容との関連							

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
英 語		教養教育 科 目	演 習	2	E201		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
則 末 久 代		1	後 期	選 択	幼	保	社
						◎	
授業概要	社会のグローバル化に伴い多様な文化的背景を持つ子どもたちや保護者と関わる場面が増えている。また、小学校での英語教育必修化により早期英語教育への関心が高まり、保育・教育の現場で英語を話す必要性が求められている。本単元では異文化知識を深めながら保育に必要な英語表現を学習する						
到達目標	1. 保育・教育現場で活用される基本的な英語コミュニケーション能力を身に付けることができる。 2. 英語表現を用いたコミュニケーションを楽しむことができる。 3. 英語コミュニケーションを通じて異文化理解が広がり、継続して学ぶ意欲が持てる。						
授業の方法	教科書と CD を使用し保育・教育の現場に必要な英語の語句、発音を学習していく。子どもたちの好きな英語の歌やお話し、日常生活に必要な英語表現をプリントで学習し異文化理解を深めていく。 最終日は保育の現場を想定し、学習してきた歌や物語を英語でグループ発表する。また、発表までのグループワークの過程も授業であるためグループ・ダイナミックスを最大限に発揮すること。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	・予習：上記授業計画に基づき、教科書の次回学習ページおよび課題に対し準備する（1時間程度） ・復習：授業終了時に出された指示に基づき復習する（1時間程度）						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	オリエンテーション / 英語による自己紹介	9	Unit8:食事に関する表現 / 英語でレシピを言おう！				
2	Unit1：園舎に関する表現 Yes-No Questions / Rayming Word～韻を踏む	10	Unit9:排泄に関する表現 / 外国のお話しを読む②				
3	Unit2：子どもの家族紹介 W/H Questions / 日本のお話しを読む①	11	Unit10：喧嘩をしている子どもへの言葉がけ 身体部位に関する表現 / 英語の歌を歌おう♪②				
4	Unit3:時間と数字の表現 / 日本のお話しを読む②	12	Unit11:けが・病気に関する表現 救急処置に関する単語 / グループワーク準備①				
5	Unit4:道順を示す表現 / 道案内をやってみよう！	13	Unit11:けが・病気に関する表現 / グループワーク準備②				
6	Unit5:園庭の道具や子どもの遊びの表現 What do you want to do? / 外国のお話しを読む①	14	講義の振り返り				
7	Unit6:登園・降園時の会話 / 英語の歌を歌おう♪①	15	グループ発表				
8	Unit7:保育士の仕事 / 英語で折り紙を折ろう！						
教科書・参考文献	保育の英会話 Childcare English 赤松直子・久富陽子著 萌文書林 英和辞典・和英辞典						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	試験終了後、重要ポイントのフィードバックを行う。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」「2」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	3分の2以上の出席を前提として、筆記試験を行う。 筆記試験（80%）、授業に対する取り組みの姿勢・課題の達成度（20%） 合計の60%で合格とする						
実務経験と担当科目内容との関連							

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
英 会 話		教養教育 科 目	演 習	2	E202		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
STEEN ROBERT JAMES		1	前 期	選 択	幼 ◎	保 ○	社 ○
授業概要	保育の現場もグローバル化が進み、子どもとのかかわりの中での日常的な会話をスムーズにできるように、いろいろな場面对応を想定し授業を行う。 文法は勉強しなくてかまわない。 保育の現場で役立つフレーズを覚え英語で思ったことを話せるようになるための秘訣の暗記授業を行う。						
到達目標	保育現場での子どもたちの生活に対応できる簡単な日常的な英語で話すことに慣れ、会話を楽しめ、子どもたちの不安や会話のストレスを軽減できる保育士になる。						
授業の方法	実用的なフレーズを勉強、暗記。 自分のことを伝える文も暗記。 授業は毎回アクティブラーニングを中心として行う						
予習・復習等 及び必要時間(分)	毎回、配布資料とノートを30分程度予習し、毎回授業時に持ってくること。 復習は必ず30分程度行うこと。						
履修条件	特にありません。						
授 業 計 画							
1	ガイダンス	仕事や勉強する私	9	困っている、情けない、			
2	礼儀やあいさつをする		10	知りたがり、相槌を打つ、受け答えをする			
3	友達に思いを伝える		11	ベラベラ more フレーズー1			
4	自分の感情を相手に伝える		12	ベラベラ more フレーズー2			
5	忠告する、励ます		13	ベラベラ more フレーズー3			
6	提案する、お願いする		14	ベラベラ more フレーズー4			
7	怒る、イライラする		15	ベラベラ more フレーズー5/6 全体の復習と重要ポイント確認			
8	思いを伝える	復習と小テスト					
教科書・参考文献							
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	小テストにおいて確認し、解答と解説により理解を深める。 グループディスカッションなどで、各個人に応じたアドバイスを行うと同時に、小テストにおいても振り返りを実施し、今後の学習に反映させる。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	授業内テスト 80% (40%×テスト2回) 暗記発表テスト 20%						
実務経験と担当科目内容との関連							

科 目 名			分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
健康科学論			教養教育 科 目	講 義	1	E301		
			年 次	開講期	卒業要件	資 格		
池 田 隼			1	前 期	選 択	幼	保	社
						◎	◎	
授業概要	本講義では、健康の維持増進を図るために、健康の概念や健康に影響を与える生活習慣、環境要因などについて学び、自身の健康を見直し、生涯にわたり健康に過すための知識を学ぶ。							
到達目標	健康の維持増進を図るために、健康の概念や健康に影響を与える生活習慣について理解を深め、生活習慣を見直し生涯にわたり健康に過すための力を身につけるための知識をつけることを目的とする。							
授業の方法	講義形式で講義を行い、単元ごとに資料を配布し学びを深める。また、毎時間レポートを提出し、理解度を確認しながら進めていく。							
予習・復習等 及び必要時間(分)	単元ごとに配布する資料の要点をまとめるなど復習が必要である。(20 分程度)							
履修条件	特にありません。							
授 業 計 画								
1	ガイダンス	9	休養と健康					
2	健康の概念	10	メンタルヘルス					
3	現代社会と健康	11	アルコール・薬物・喫煙					
4	生活習慣病	12	性感染症の実態					
5	ライフステージと健康管理	13	する・みる・支えるスポーツ					
6	運動と健康	14	ライフサイクル					
7	トレーニング理論と運動処方	15	運動プログラム・講義総括					
8	栄養と健康							
教科書・参考文献	健康づくりのための運動の科学（化学同人） 健康増進化学概論 ―運動・栄養・休養―（東京教学社）							
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	単元ごとに（レポート）を実施し、授業内で解答と解説を行い、理解度を確認する。							
卒業認定・学位授 与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。							
成績評価の方法及 び基準	筆記試験 80%・授業内レポート 20%を基に、総合的に評価を行い 60 点以上で合格とする。							
実務経験と担当科 目内容との関連								

科 目 名			分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
健康とスポーツ			教養教育 科 目	実 習	1	E302		
			年 次	開講期	卒業要件	資 格		
池 田 隼			1	前 期	選 択	幼	保	社
						◎	◎	
授業概要		運動を通しスポーツへの理解を深め、心身共に健康で活発的な身体づくりを行い、生涯にわたり積極的に運動に関わる資質を高める。						
到達目標		運動への意欲を高め、生涯にわたり積極的に運動に関わる資質を高めることを目的として演習を行う。						
授業の方法		実技形式で行う。また、バスケットボール、バレーボール、バドミントンの種目別の特性を踏まえグループを形成し演習を進める。						
予習・復習等 及び必要時間(分)		各種目におけるルール理解のための予習が必要。また、レポートのための復習が相当時間必要となる。						
履修条件		特にありません。						
授 業 計 画								
1	ガイダンス		9	バスケットボール③				
2	リズム体操（小テスト1回目）		10	バスケットボール④（小テスト3回目・レポート提出）				
3	バレーボール①		11	バドミントン・卓球②				
4	バレーボール②		12	ドッチボール				
5	バレーボール③		13	体づくり運動①				
6	バレーボール④（小テスト2回目・レポート提出）		14	体づくり運動①				
7	バスケットボール①		15	演習総括				
8	バスケットボール②							
教科書・参考文献		東京書籍ビジュアル新しい体育実技						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法		単元ごとに（レポート）を実施し、授業内で解答と解説を行い、理解度を確認する。						
卒業認定・学位授与の方針との関連		当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準		授業内テスト3種目（60%）、レポート2回（40%）2回のレポート提出および各種目の実技テストの受験が単位認定の必須条件。						
実務経験と担当科目内容との関連								

科 目 名			分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
幼 児 音 楽			専門教育 科 目	演 習	2	S301		
			年 次	開講期	卒業要件	資 格		
江 端 深 雪			1	前 期	必 修	幼	保	社
						◎	◎	
授業概要		保育者として必要な音楽基礎能力の育成を目的とし、ピアノ演奏技術習得を含めた総合的な音楽能力の伸長を図る。						
到達目標		保育現場で必要な基礎音楽力を習得したうえで、音楽分野における保育の内容・方法を理解し、子どもと共に豊かで創造的な音楽活動を展開できる。						
授業の方法		教科書とプリントを使用し、保育に必要な音楽基礎理論を学習すると同時に、主に ML を使用してのピアノ演奏法の習得を目的に、演習形式で授業を実施する。						
予習・復習等 及び必要時間(分)		配布された理論プリント課題を完了させる。 ピアノ演奏に関しては個人練習に因るところが非常に大きいため、毎日最低 30 分～1 時間以上の反復練習が必要。						
履修条件		特にありません。						
授 業 計 画								
1	ガイダンス		9	和音記号 コードネーム基礎				
2	五線と音の名前		10	理論小テスト				
3	音符と休符 拍子		11	伴奏型の応用				
4	弾くこと 楽譜を読むこと		12	ML によるピアノ演奏学習				
5	＃・♭と和音 調について		13	グループでアンサンブルを楽しむ ①				
6	ハ長調の理解（伴奏法）		14	グループでアンサンブルを楽しむ ②				
7	ハ長調例題曲の学習		15	ピアノ・弾き歌い小テスト				
8	ピアノ課題曲演奏							
教科書・参考文献		楽譜が読める・弾けるステップ 20（音楽之友社）						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法		理論に関しては、毎時間のプリント課題を含め正誤の確認をし、理解を深める。 ピアノ演奏については、ML 学習時に個々に助言を行うと同時に、小テストにおいても振り返りを実施し、今後の自己練習に反映させる。						
卒業認定・学位授与の方針との関連		当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」「2」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準		ピアノ・弾き歌い小テスト合格が必須条件（60%） 提示課題、その他小テストなど(40%) ※ピアノ・弾き歌い小テストの合格条件については、授業内で詳細に説明する。						
実務経験と担当科目内容との関連								

科 目 名			分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
保 育 音 楽			専門教育 科 目	演 習	1	S302		
			年 次	開講期	卒業要件	資 格		
江 端 深 雪			1	後 期	選 択	幼	保	社
						◎		
授業概要	「幼児音楽」のサブ科目として位置付け、保育者に必要な理論を含めた基礎音楽力の向上を目指すと同時に、グループワークにより音楽の楽しさをより体感できる学習の場を設定する。							
到達目標	ピアノ演奏技術の向上、基礎理論の習得に加え、さらに応用的な保育音楽を学習することにより、子どもの感性を育むことのできる表現力豊かな保育者となる。							
授業の方法	プリント、教科書を使用し、「幼児音楽」から引き続き基礎理論を学ぶと同時に、グループワークを中心とした「弾く」「作る」「演奏する」実践的な授業へと展開する。							
予習・復習等 及び必要時間(分)	課題完成のための自己学習が必須。 ピアノ演奏に関しては個人練習に因るところが非常に大きいため、毎日最低 30 分～1 時間以上の反復練習が必要。							
履修条件	特にありません。							
授 業 計 画								
1	ガイダンス	9	理論小テスト					
2	へ長調の理解（伴奏法）	10	手作り楽器の作成					
3	へ長調例題曲の学習	11	手作り楽器によるアンサンブル					
4	ト長調の理解（伴奏法）	12	ミュージックベルを楽しむ ①					
5	ト長調例題曲の学習	13	ミュージックベルを楽しむ ②					
6	ML によるピアノ演奏学習	14	グループ発表 振り返り					
7	ML でアンサンブルを楽しむ	15	ピアノ・弾き歌い小テスト					
8	短調の理解							
教科書・参考文献	楽譜が読める・弾けるステップ 20（音楽之友社）							
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	ピアノ演奏においては個別に確認し、練習方法を含め習熟度に応じた指導を行う。 グループワークにおいては、振り返りと同時に応用方法などを提示し、実際に保育現場を想定した展開を自ら考える契機とする。							
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」「2」に該当する科目である。							
成績評価の方法及び基準	ピアノ・弾き歌い小テスト合格が必須条件（60%） 提示課題、その他小テストなど(40%) ※ピアノ・弾き歌い小テストの合格条件については、授業内で詳細に説明する。							
実務経験と担当科目内容との関連								

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
音 楽 実 践		専門教育 科 目	演 習	1	S305		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
こども学科担当教員		1	後 期	選 択	幼	保	社
						◎	
授業概要	本講義は、幼児音楽の知識を深める共に、教職への適性を検討する。						
到達目標	教職への意識を高める事の目的と音楽表現力の体得						
授業の方法	教科書を用い、学生自ら授業を進めていく。 授業内テストを受験し学位授与認定。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	教科書の内容は学生自ら復習(30分程度)が必要(グループで曲を振り分ける)						
履修条件	特にありません。						
授 業 計 画							
1	ガイダンス 発声に関する理論 9月のうたより(ゆうやけこやけ 他)	9	2月・3月のうたより (豆まき・あられ・どこかで春が 他)				
2	発声に関する理論 9月のうたより(まつぼっくり) 10月のうたより(どんぐり 他)	10	3月・4月のうたより (ひなまつり・1年生になったら 他)				
3	発声に関する理論 10月11月のうたより (こうもりのうた 他)	11	4月・5月のうたより(おはようのうた・おかえりのうた・チューリップ 他)				
4	11月のうたより(まっかな秋 他)	12	5月・6月のうたより(せいくらべ・ぞうさん・はみがきしましう 他)				
5	12月のうたより(ゆきのこぼうず 他)	13	6月・7月のうたより (お星さま・たなばたさま・トマト 他)				
6	12月のうたより (あわてんぼうのサンタクロース 他)	14	イタリアの歌曲より(ニーナ) 7月・8月のうたより (アイアイ・うみ 他)				
7	1月のうたより (お正月・雪のペンキ屋さん 他)	15	イタリアの歌曲より(ニーナ) 8月のうたより (はなび・手のひらを太陽に 他)				
8	1月・2月のうたより (やぎさんゆうびん・おへそのうた 他)						
教科書・参考文献	たのしく遊べるこどものうた						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	授業内の小テストによる個々の確認をしグループワークにて自己の曲に対する音楽表現が理解できているのか確認する。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	定期試験 100% 60%以上で合格						
実務経験と担当科目内容との関連							

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
幼 児 美 術		専門教育 科 目	演 習	2	S306		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
神 林 眞 里		1	前 期	必 修	幼 ◎	保 ◎	社 ◎
授業概要	本授業では、子どもの遊びを豊かにし表現活動へのよき援助者、誘導者、理解者となるよう、造形表現の基礎的知識と技術を体得する。子ども達の心を受け止め共感し、豊かな表現活動へと導くことができるよう、自らの感性を磨き表現力を向上する。						
到達目標	○造形表現の基礎的知識と技法を子どものあそびを想定実践しながら習得。 ○モダンテクニックを実践し表現の楽しさを味わい、自由な発想と創造力を育む。						
授業の方法	前半は教科書やプリントなどを用いながら造形の基礎知識を講義形式で行い、6講以降は表現の楽しさを知り表現力を向上させるための実技体験を行なう。また、幼児造形の視点から発達段階を理解し、年齢にあわせた指導のあり方を考える。毎時間の学びや制作のためのアイデアスケッチなど自分なりのデザインでポートフォリオを作成する。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	ポートフォリオを作成し、毎時間振り返りと復習を行うこと。(20分程度) 課題作品については、事前準備(20分程度)と創意工夫のための継続的制作時間が必要。						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	技法遊び③				
2	ポートフォリオ作成方法	10	技法遊び④				
3	人間と造形活動・造形あそびの意義	11	技法遊び⑤				
4	乳幼児造形表現の発達段階と特徴	12	形と構成				
5	遊びと造形活動	13	色彩				
6	素材と道具	14	デザイン				
7	技法遊び①	15	振り返り				
8	技法遊び②						
教科書・参考文献	「子どもの造形表現」(開成出版) 保育をひらく造形表現(萌文書林) 他						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	ポートフォリオ形式で、毎時間学びの内容と振り返りを記入。また全講義終了時には自己評価を行い、完成したポートフォリオの提出。造形表現の基礎知識について筆記試験を行い、未修得の内容について振り返りを行う。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	提出作品(50%)、筆記試験(30%)、ポートフォリオ(20%)を総合して評価する。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科 目 名			分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
保 育 造 形			専門教育 科 目	演 習	1	S307		
担当教員氏名			年 次	開講期	卒業要件	資 格		
神 林 眞 里			1	後 期	選 択	幼	保	社
							◎	
授業概要	本授業では、子ども達がのびのびと自己を表現し感性豊かに成長できるような表現活動の展開を目指した支援方法を習得する。保育士自身が表現者であり、子ども達と共感することで楽しい表現へと導けることから、保育士を目指す学生自身が実技体験を通して感性を磨き、造形表現の楽しさや自由な発想を体感する。							
到達目標	○美術の基礎的知識や技術を基に、子ども達の遊びを共感し活動豊かになるよう支援の方法を習得する。○素材研究をする中で、道具の扱いや安全性、応用力を理解し、環境の提供ができるようにする。							
授業の方法	造形の基礎理解のための講義と、子どもたちの遊びに実践できる造形教材制作などの実技体験を行なう。							
予習・復習等 及び必要時間(分)	課題作品については、創意工夫のために継続的制作時間が必要。							
履修条件	特にありません							
授 業 計 画								
1	ガイダンス、 ポートフォリオの作成		9	手作りおもちゃの意義				
2	保育室の環境構成と道具の研究		10	手作り教材制作				
3	名札製作		11	手作り教材制作				
4	名札製作		12	手作り教材制作				
5	誕生表制作		13	手作り教材制作				
6	誕生表制作		14	手作り教材制作				
7	子どもの遊びと文化		15	手作り教材実践方法と振り返り				
8	絵本の意義と種類							
教科書・参考文献	幼児造形の基礎（萌文書林） 「子どもの造形表現」（開成出版） 他							
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	制作した名札やおもちゃ、教材に関しては、実際に保育現場や実習先で使用実践する。対象年齢とねらいを明確にして制作したおもちゃや教材は、実践を想定し子ども達の活動予測や自己の取り組みについてポートフォリオ作成と自己評価をして振り返る。							
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目である。							
成績評価の方法及び基準	保育者を目指す者として意欲的な態度で作品制作を行っていたのか、また子ども達の遊びを予測し創意工夫がされたものであるか、制作した作品とポートフォリオ、自己評価を総合的に判断する。 (提出作品 70%, ポートフォリオ 20%, 自己評価 10%)							
実務経験と担当科目内容との関連								

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
基 礎 国 語		専門教育 科 目	講 義	2	S101		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
福島 憲成 ・ 西川 司		1	前 期	選 択	幼 ◎	保 ◎	社
授業概要	本講義では、国語の基礎の「書く」「読む」「話す」を学ぶと共に、コミュニケーション能力を身につけことを主題として授業を行う。						
到達目標	コミュニケーション能力の高い教職への意欲を目的とする。						
授業の方法	講義中心とするが、講義時間内に例題を出し、その場で文章を書かせることを主にする。また、グループワーク。討論形式。ビデオ鑑賞。絵本・童話の読み聞かせを行う。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	事後にレポートにまとめ、自分がどこまで理解したかを確認する作業を繰り返すことが大切。講義内の例題(だいたい三問)に対して出した自分の答えを家で繰り返して書き、応用する力を備えるため、復習におよそ 15～20 分必要。						
履修条件	特にありません。						
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	対話力を身につける(2)				
2	文章の書き方(1)	10	絵本・童話の読み聞かせ(1)				
3	文章の書き方(2)	11	絵本・童話の読み聞かせ(2)				
4	「起承転結」「序・破・急」を身につける(1)	12	創作童話に挑戦				
5	「起承転結」「序・破・急」を身につける(2)	13	入社試験に必要な小論文を書く				
6	文章による自己アピールの仕方	14	入社を想定した模擬面接の実践				
7	会話による自己アピールの仕方	15	講義総括				
8	対話力を身につける(1)						
教科書・参考文献	向日葵のかっちゃん						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	授業をすべて終え、参考文献に対する感想を書いてもらい、文章の構成・語彙・狙い・言葉遣い等々が身につけているかを検証し、添削したものを生徒にフィードバックすることで国語力のさらなる向上を目指す。						
卒業認定・学位授 与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目である。						
成績評価の方法及 び基準	講義中に出す例題の正解率、レポート等を総合的に評価する。						
実務経験と担当科 目内容との関連							

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
社 会 福 祉		専門教育 科 目	講 義	2	S103		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
渡 谷 能 孝		1	前 期	選 択	幼	保	社
					◎	◎	◎
授業概要	日本の社会福祉の歴史や法制度、実施体制について学習し、保育者に必要とされる情報や現状の課題などを考え、子ども家庭支援の視点について幅広く理解していきます。						
到達目標	社会福祉の意義と歴史、サービスの概要と重要性について学び、学生一人ひとりが社会福祉に関する制度や知識についての理解を深め、保育者として資質向上を図り、子ども家庭支援者の視点について理解することをねらいとする。						
授業の方法	テキストとスライドを用いた講義形式で授業を行う。必要に応じて、保育にかかわる福祉課題などをテーマに、グループディスカッションを通して考える。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	予習として、次回講義ページの教科書を読んでおく（20分程度）。 スライド表示したものや配布したプリントを再確認して復習（15分程度）。						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	児童福祉①（子どもと子育て家庭への支援）				
2	保育と社会福祉	10	児童福祉②（児童福祉施設）				
3	社会福祉と保育の道すじ	11	障害のある人の福祉				
4	社会福祉の意味と考え方	12	高齢者福祉と少子化				
5	社会福祉の実施体制と財源	13	地域福祉				
6	社会保障制度①（年金保険）	14	子どもと家族の福祉課題（グループディスカッション）				
7	社会保障制度②（医療保険）	15	社会福祉における相談援助				
8	社会保障制度③（生活保護）						
教科書・参考文献	九訂 保育者を目指す人の社会福祉（みらい）						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	授業内試験の実施後に返却して解答、解説を行うことで、各々の理解度を再確認する。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位の授与の方針の「3」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	授業内筆記試験（100%）を原則とし、グループディスカッション（積極性、論理的思考、他者への配慮）の実施状況から、授業の到達目標の達成度合いを含めて総合的に判断して評価します。再々試験まで単位認定を行う。						
実務経験と担当科目内容との関連	第一種社会福祉事業における実務経験を基に、幅広い社会福祉視点を生かした授業展開を行う。						

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
保育の心理学		専門教育 科 目	講 義	2	S201		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
阿 部 千 春		1	後 期	選 択	幼	保	社
					◎		
授業概要	乳幼児期における大人や仲間との相互関係、多様な経験、指導・援助のあり方、環境の構成の意義について理解を深めることを目的とします。						
到達目標	子どもの発達に関わる心理学や子どもの学びの過程、特性についての基礎的な知識を習得することをめざします。						
授業の方法	講義資料を用い、講義形式で行います。授業内で行う試験を受験することが単位認定の必須条件となります。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	次の授業で取り上げるテーマについて教科書を読んで予習してください。（１５分程度） 授業後は、教科書と講義資料を読んで復習し、学習した内容の要点をノートにまとめます。（２０分程度）						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	愛着の形成と親子関係②				
2	子どもの発達の理解	10	社会性と友達関係の発達				
3	発達理論と子ども観・保育観	11	乳幼児期の学びの過程と特性－遊びの発達－				
4	身体的機能と運動機能の発達	12	自己概念の発達				
5	認知の発達	13	道徳性の発達と向社会的行動				
6	乳幼児期の学びに関わる理論－感情と動機づけの発達－	14	乳幼児期の学びを促す援助のあり方				
7	言語とコミュニケーションの発達	15	講義総括				
8	愛着の形成と親子関係①						
教科書・参考文献	教科書：櫻井茂男・大内晶子著「たのしく学べる乳幼児のこころと発達」福村出版 参考文献：川島一夫他編著「図で理解する発達心理学」福村出版						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	テスト解説を行うことで、誤答問題の見直しができるようにします。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「１」に該当する科目です。						
成績評価の方法及び基準	成績評価は、授業内試験（70％）、ファイル提出（20％）、授業後に提出する感想カード（10％）によって総合的に評価し、単位認定を行います。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
子育て支援		専門教育 科 目	演 習	1	S203		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
渡 谷 能 孝		1	後 期	選 択	幼	保	社
						◎	
授業概要	子育て世帯の現状から見える課題を通じ、保護者とのかかわりを基本とした信頼関係の構形成基に、保護者支援に関する特性と具体的な展開方法を理解する。						
到達目標	保育士の専門性である保護者に対する相談、助言の知識や技術を理解し、子育て家庭を取り巻く状況をとらえた上で、その家庭環境に合わせた支援の在り方について考え、保護者に対する相談、助言の具体的に展開することができる。						
授業の方法	テキスト、スライド、プリントを用いて講義、演習を実施し、子育て支援についての理解を深める。子育て支援の課題解決に向けたグループワークを実施する。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	講義終了時に、次回の講義に向けた予習課題を出します（20分程度）。 授業において配布した資料を再確認する（15分程度）						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	オリエンテーション・子育て支援とは	9	子育て支援の展開②（計画）				
2	子育て支援を取り巻く状況の変化	10	子育て支援の展開③（グループワーク）				
3	保育士の行う子育て支援体制	11	地域子育て家庭への支援				
4	子どもの保育を通じた保護者支援	12	障がいのある子どもを抱えた家庭への子育て支援				
5	保育相談支援者としての保護者理解と信頼関係	13	特別な配慮を要する子どもへの支援				
6	子育て支援の基本①	14	多様なニーズをかかえる家庭への子育て支援				
7	子育て支援の基本②	15	講義内容の振り返り				
8	子育て支援の展開①（状況把握）						
教科書・参考文献	新基本保育シリーズ⑱子育て支援						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	授業内試験の実施後に返却して解答、解説を行うことで、各々の理解度を再確認する。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位の授与の方針の「3」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	授業内筆記試験（100%）を原則とし、グループディスカッション（積極性、論理的思考、他者への配慮）の実施状況から、授業の到達目標の達成度合いを含めて総合的に判断して評価します。 再々試験まで単位認定を行う。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
子ども家庭福祉		専門教育 科 目	講 義	2	S204		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
小 山 貴 博		1	後 期	必 修	幼	保	社
					◎		
授業概要	教科書の内容にもとづき、講義形式およびアクティブ・ラーニング形式で行う。筆記試験の受験が単位認定の必須条件となる。						
到達目標	本講義では、児童とその家庭を取り巻く現状を背景に、児童家庭福祉の基本的な考え方や歴史を理解する。その上で、児童家庭福祉にかかわる各種の具体的な制度やサービスを理解する。						
授業の方法	教科書の内容に沿ったたかたちで、講義形式で行う。筆記試験の受験が単位認定の必須条件となる。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	各回の受講後には、講義内容を復習し、必要に応じて、各種統計資料や関連法の原文等を参照すること。						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	児童虐待とDV				
2	児童とその家庭を取り巻く現状	10	社会的養護、ひとり親家庭への福祉				
3	子どもの権利保障	11	障害児福祉				
4	児童家庭福祉の歴史	12	情緒障害・非行児童への対応				
5	児童家庭福祉の法体系と行財政、実施機関	13	児童家庭福祉の専門職と連携				
6	子育て支援サービスと児童の健全育成	14	講義内容の振り返り①				
7	母子保健サービス	15	講義内容の振り返り②				
8	保育サービス						
教科書・参考文献	『コンパクト版 保育者養成シリーズ＜新版＞相談援助』（一藝社）						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	試験終了後、フィードバックを行う。						
卒業認定・学位授 与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位の授与の方針の「3」に該当する科目である。						
成績評価の方法及 び基準	筆記試験を実施する。なお、60 点以上で合格とする。						
実務経験と担当科 目内容との関連							

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
保 育 原 理		専門教育 科 目	講 義	2	S104		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
奥 野 正 義		1	前 期	必 修	幼	保	社
						◎	◎
授業概要	保育とは何か、保育を取り巻く制度や環境、世界や日本の保育の歴史など、保育者になるための基本的な事項について理解を深めることが目的である。具体的には、保育の意義及び目的、幼稚園教育要領や保育所保育指針における保育の基本、保育の内容と方法などについて考える。						
到達目標	1. 保育の意義と目的を説明できる。 2. 保育所保育指針に示されている保育の基本を説明できる。 3. 保育計画にかかわる保育目標や内容、方法を考察し、説明できる。						
授業の方法	主に配布プリントやビデオ・資料等を用い、講義形式で行う。授業内テストを受験することが単位認定の必須条件。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	毎回、予習に相当する課題を示し、考えてもらう（３０分程度）。復習は、講義中に筆記したノートを読み返して、重要な点をチェックできるような課題を提示する（３０分程度）。						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	オリエンテーション：保育とは	9	保育方法				
2	保育制度１：幼稚園とは	10	保育計画と評価				
3	保育制度２：保育所とは	11	子育て支援と地域連携				
4	新しい保育制度：子ども・子育て支援新制度	12	世界の保育の歴史				
5	幼稚園教育の基本	13	日本の保育の歴史				
6	保育所保育の基本	14	グループディスカッション				
7	子どもの発達の理解と保育	15	保育の現状と課題				
8	保育内容						
教科書・参考文献	「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」（いずれもフレーベル館）						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	定期試験後に再試験対象者にのみ、課題（試験やレポート等）を返却する。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位の授与の方針の「１」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	定期試験とレポートで総合的に評価する。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
社会的養護Ⅰ		専門教育 科 目	講 義	2	S106		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
小 山 貴 博		1	後 期	選 択	幼	保	社
					◎		
授業概要	社会的養護を支える理念の理解、日本そして世界における社会的養護の現状と課題、望ましい社会的養護の実現に向けた法および政策の理解。						
到達目標	本講義では、社会的養護の求められる背景や歴史、理念を理解する。その上で、社会的養護の体系や実施現場、支援の実際を理解する。また、社会的養護で求められる保育者の専門性を理解する。						
授業の方法	講義形式で行う。また適宜教科書を参照しながらすすめる。筆記試験の受験が単位認定の必須条件となる。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	各回の受講後には、講義内容を復習し、必要に応じて、各種統計資料や関連法の原文等を参照すること。						
履修条件	特にありません。						
授 業 計 画							
1	オリエンテーション	9	貧困対策				
2	社会的養護とは	10	現代保育の諸問題				
3	社会的養護の歴史	11	保育者の専門性				
4	社会的養護の基本原理	12	諸外国における子育て支援				
5	社会的養護の体系、施設養護①	13	世界の子育て				
6	施設養護②	14	講義内容の振り返り①				
7	女性の貧困	15	講義内容の振り返り②				
8	孤独死						
教科書・参考文献	「現代保育論Ⅰ」保育方法研究会編（一藝社）						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	試験終了後、押さえるべき重要事項の確認を行う。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位の授与の方針の「3」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	筆記試験を実施する。なお、60 点以上で合格とする。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
保育実習指導Ⅰ（保育所）		専門教育 科 目	演 習	※	S401		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
藤 村 敦		1	後 期	選 択	幼	保	社
					◎		
授業概要	教科書やプリント、DVD を用いて、保育実習Ⅰの目的や具体的内容、方法、実習生としての心構えを学ぶ。また、実習に必要な基本的な知識に関する学びを深める。						
到達目標	「保育実習Ⅰ」の目的が分かり、その具体的内容や方法、実習生としての心構え等を理解する。また、保育実習Ⅰに必要な基本的知識を習得する。						
授業の方法	主に講義形式で行い、教科書（保育指針解説等）、プリント、DVD 等を用いながら、保育への理解を深める学習を行う。保育内容についての理解度を確認するために、小テストを行うとともに、学習した内容を実際の保育場面に当てはめて考えるための演習なども行う。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	授業後に配布プリント、教科書（保育指針解説等）を基に、授業内容を振り返り、学んだ内容について、実施の保育実習に当てはめて考えることができるよう復習してください（1時間程度）。また、小テストに向け、授業内容の復習に相当時間必要。						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	オリエンテーション、保育実習Ⅰの位置付け	9	保育指針、教育・保育要領の理解③				
2	保育所とは	10	保育指針、教育・保育要領の理解④				
3	保育士の倫理	11	保育指針、教育・保育要領の理解⑤、小テスト				
4	保育者に求められる資質	12	保育実習課題				
5	保育ニーズと保育制度、保育の種類	13	保育実習日誌の書き方				
6	保育所の生活と1日の流れ	14	実習計画と指導案				
7	保育指針、教育・保育要領の理解①	15	実習直前指導と自己評価に関する説明				
8	保育指針、教育・保育要領の理解②						
教科書・参考文献	保育実習（中央法規）近喰晴子・寅屋壽廣・松田純子編、保育所保育指針解説（フレーベル館）厚生労働省編、参考文献：幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（フレーベル館）内閣府・文部科学省・厚生労働省編						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	授業内演習課題については、次の講義の冒頭で具体的な解答例を示し、振り返りを行うとともに、それについて解説を行う。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	授業内演習課題（70%）、授業内小テスト（30%）を基にして、総合的に評価を行い、60点以上で合格とする。 ※ 単位は保育実習指導Ⅰ（施設）と合わせて2単位とする。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
保育実習指導Ⅰ（施設）		専門教育 科 目	演 習	※	S401		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
阿 部 千 春		1	後 期	選 択	幼	保	社
						◎	
授業概要	本授業では、保育実習の中の「社会福祉施設」実習について、その意義や位置づけを理解するとともに、実習で必要な基本的な知識、技術、態度等を習得します。						
到達目標	既習の科目全体で学んだ理論と実習を関連づけて、自己の課題を明確にすることをめざします。						
授業の方法	教科書と講義資料を用いて講義形式で行います。10 回目に実習施設の施設長による学外講義と施設見学を行います。課題の提出、授業内で行う確認テストの受験が単位認定の必須条件となります。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	社会福祉施設実習に関わる準備を行います。実習に備え、体調管理をしっかりと行います。						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	障害児(者)関係施設の理解③				
2	社会福祉施設実習の目的と内容	10	施設長による講話				
3	社会福祉施設の基本的理解	11	施設実習事前学習①				
4	社会的養護施設の理解①	12	施設実習事前学習②				
5	社会的養護施設の理解②	13	実習の計画と記録				
6	社会的養護施設の理解③	14	実習課題の設定				
7	障害児(者)関係施設の理解①	15	実習直前指導				
8	障害児(者)関係施設の理解②						
教科書・参考文献	教科書：守巧他著「施設実習パーフェクトガイド」わかば社、全国保育士養成協議会北海道ブロック協議会編「保育実習ガイドライン（福祉施設実習編）」、参考文献：駒井美智子他著「施設実習ガイド」萌文書林						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	提出した課題について、所見をつけて返却します。また、テスト解説を行うことで、誤答問題の見直しができるようにします。						
卒業認定・学位授 与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目です。						
成績評価の方法及 び基準	成績評価は、提出されたレポート等の課題（60%）、確認テスト（40%）によって総合的に評価し、単位を認定します。						
実務経験と担当科 目内容との関連							

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
保育実習Ⅰ（保育所）		専門教育 科 目	実 習	※	S404		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
藤村 敦・池田 隼		1	集 中	選 択	幼	保	社
					◎		
授業概要	保育実習指導Ⅰ及びこれまで学んだ知識・技術を基礎として保育所での活動に参加し、乳幼児に対する理解や保育所の役割、保育士の職務等について学ぶ。						
到達目標	これまでの大学での学びを生かして、積極的に保育所での活動に参加し、乳幼児の発達や保育内容、保育環境、保育士の職務等について実践的に理解する。						
授業の方法	保育所にて10日間以上と社会福祉施設にて10日間以上、合計20日間以上の必修実習となります。実習日誌等の提出は単位認定の必須条件となります。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	保育実習指導Ⅰを受講し、実習に必要な知識をつけておくとともに、保育実習指導Ⅰで指定された準備を行っておくこと。						
履修条件	実習前に開講されている学則必修科目、および保育士資格取得科目に関して未修得がある場合、または修得の見込みが立たない場合、保育実習を履修できない場合がある。						
授 業 計 画							
1	保育所保育実習	9	保育所保育実習				
2	保育所保育実習	10	保育所保育実習				
3	保育所保育実習	11	保育所保育実習				
4	保育所保育実習	12	保育所保育実習				
5	保育所保育実習	13	保育所保育実習				
6	保育所保育実習	14	保育所保育実習				
7	保育所保育実習	15	保育所保育実習				
8	保育所保育実習						
教科書・参考文献	保育実習（中央法規）近喰晴子・寅屋壽廣・松田純子編、保育所保育指針解説（フレーベル館）厚生労働省編						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	面談を行い、これまでの実習や日誌の記述内容についての振り返りを行うとともに、今後の課題に関する共通理解を行う。						
卒業認定・学位授 与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「3」に該当する科目である。						
成績評価の方法及 び基準	保育所からの評価（70%）、実習日誌（30%）を基にして、総合的に評価を行い、60点以上で合格とする。 ※単位は保育実習Ⅰ（施設）と合わせて4単位とする。						
実務経験と担当科 目内容との関連							

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
保育実習Ⅰ（施設）		専門教育 科 目	実 習	※	S404		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
阿部 千春・小山 貴博		1	集 中	選 択	幼	保	社
					◎		
授業概要	保育実習Ⅰにおける社会福祉施設での現場実習を踏まえ、より実践的で総合的視点からの施設機能や役割、対象児（者）への理解を深めます。						
到達目標	社会福祉施設での実習を通して、保育士として必要な知識・技術を習得することを目的とします。						
授業の方法	保育所にて10日間と社会福祉施設にて10日間、合計20日間の必修実習となります。実習日誌とレポートの提出は単位認定の必須条件となります。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	事前学習として、自分が行く実習施設について調べておき、必要な知識をつけておきます。						
履修条件	実習前に開講されている学則必修科目、および保育士資格取得科目に関して未修得がある場合、または修得の見込みが立たない場合、保育実習を履修できない場合があります。						
授 業 計 画							
1	福祉施設実習	9	福祉施設実習				
2	福祉施設実習	10	福祉施設実習				
3	福祉施設実習	11	福祉施設実習				
4	福祉施設実習	12	福祉施設実習				
5	福祉施設実習	13	福祉施設実習				
6	福祉施設実習	14	福祉施設実習				
7	福祉施設実習	15	福祉施設実習				
8	福祉施設実習						
教科書・参考文献	教科書：守巧他著「施設実習パーフェクトガイド」わかば社、全国保育士養成協議会北海道ブロック協議会編「保育実習ガイドライン（福祉施設実習編）」、参考文献：駒井美智子他著「施設実習ガイド」萌文書林						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	実習施設からの評価表と実習日誌、レポート、自己評価表を用い、事後指導のための面談を行います。						
卒業認定・学位授 与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「3」に該当する科目です。						
成績評価の方法及 び基準	成績評価は、実習施設からの評価（50%）、実習日誌（30%）、レポート（20%）を基に総合的に評価して、単位を認定します。 ※単位は保育実習Ⅰ（保育）と合わせて4単位とする。						
実務経験と担当科 目内容との関連							

科 目 名			分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
子どもの食と栄養			専門教育 科 目	演 習	2	S207		
担当教員氏名			年 次	開講期	卒業要件	資 格		
山 田 陽 子			1	前 期	選 択	幼	保	社
							◎	
授業概要	子どもの栄養と食生活は生涯にわたる健康な生活の基礎となる。そのことを踏まえてすこやかな心身の発達を助長するために、栄養素の基礎知識からはじめ、食生活はどうあったらよいかを理解する。							
到達目標	保育者として子どもの食生活に関わる要素を学習する。特に近年は子どもに対しての「食育」の観点からも子どもの食事は重要視されている。それらを講義・演習の中に取り入れる。また子どもに限らず、自分自身の健康を振り返る機会とする。							
授業の方法	講義と演習を組み合わせで行う							
予習・復習等 及び必要時間(分)	授業の予定と終了後に教本の復習60分程度必要							
履修条件	特にありません。							
授 業 計 画								
1	オリエンテーションとシラバスの説明	9	離乳食の意義、前期の食事					
2	健康と食生活、栄養の意義	10	離乳期中期、後期の食事作成					
3	子どもの栄養と身体発育	11	幼児期栄養摂取と食事作成					
4	栄養素の働き	12	幼稚園・保育園の食事					
5	消化と吸収の生理	13	食育の意義と教育					
6	食品摂取の基本	14	特殊な病気と食事、アレルギー					
7	子どもの献立作成、演習	15	全体を通してのまとめ					
8	授乳の意義と母乳とミルクの違い							
教科書・参考文献	子どもの食と栄養 学建書院							
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	学生個人が経験した食事に関する内容をレポートする。乳幼児の食事を知るために、課題を出して献立・食事のレポート作成を行なう。							
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。							
成績評価の方法及び基準	課題レポート提出と筆記試験の合計点が60点以上で合格							
実務経験と担当科目内容との関連								

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
乳児保育 I		専門教育 科 目	講 義	2	S209		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
石 山 真由美		1	前 期	選 択	幼	保	社
					◎		
授業概要	乳児保育の意義・目的について、テキストを参考に法律や3歳未満児の発育・発達について学ぶ。						
到達目標	乳児保育の意義・目的について、テキストを参考に法律や3歳未満児の発育・発達について学び、乳児保育の現状について理解する。						
授業の方法	講義形式で授業を行い、テキスト・ワークシート・DVDなどの補助教材を用いながら理解を深める。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	授業の中でいくつか課題を出し取り組むため、教科書・その他の参考文献により取り組みながら予習復習に30分程度必要						
履修条件	特にありません。						
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	乳児のこころの発達				
2	乳児保育はなぜ必要か	10	乳児のことばの発達				
3	乳児保育の成り立ちを知ろう	11	乳児のからだ				
4	「子ども子育て支援新制度」	12	乳児における複数担任制				
5	知っておきたい法律のいろいろ	13	保育所で過ごす一日の流れ				
6	「保育所保育指針」とは	14	保護者との連携を考えよう				
7	「保育所保育指針」における乳児保育のポイント	15	発達の遅れと向き合う まとめと小テスト				
8	人生の基礎としての乳児期						
教科書・参考文献	はじめて学ぶ乳児保育 第二版 保育所保育指針解説書						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	授業内の課題を基に事例を提示し全体で振り返りを行うとともに解説を行う。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	テスト 50% 課題提出 50%						
実務経験と担当科目内容との関連	現職の認定こども園園長が、これまでの保育者としての経験を活かし乳児保育の基本や保育方法等について授業を行う。						

科 目 名			分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
乳児保育 II			専門教育 科 目	演 習	1	S210		
担当教員氏名			年 次	開講期	卒業要件	資 格		
山 田 陽 子			1	後 期	選 択	幼	保	社
							◎	
授業概要		乳児保育Ⅰの理論を基に実践を学習する。対象に合わせた乳児の日常生活の保育・援助を具体的にその方法を身につける。						
到達目標		子どもの生活援助、発達への援助を身につける。演習科目なので様々な実技を習得する。						
授業の方法		講義と演習を組み合わせで行う。グループ演習を取り入れる。						
予習・復習等 及び必要時間(分)		授業の予定と終了後に教本の復習60分程度必要						
履修条件		特にありません						
授 業 計 画								
1	オリエンテーションとシラバスの説明		9	からだの観察と清潔の意義				
2	新生児の身体計測の実施		10	沐浴と清拭のしかた				
3	抱っこのしかた、おんぶのしかた		11	保育室内の環境と衛生				
4	乳児の衣服の知識。選び方、着衣		12	乳児保育における事故の発生と安全管理				
5	おむつの着脱、おむつはずし		13	病気の子どもへの個別援助				
6	母乳とミルクの違い、		14	母親への個別援助				
7	調乳のしかた、授乳のしかた		15	全体を通してのまとめ				
8	食事のしかた、個別の援助							
教科書・参考文献		はじめて学ぶ 乳児保育 同文書院						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法		演習レポートを提出し、グループワークで討論する。学生間で共有する。						
卒業認定・学位授 与の方針との関連		当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。						
成績評価の方法及 び基準		課題レポート提出と筆記試験の合計点が60点以上で合格						
実務経験と担当科 目内容との関連								

科 目 名			分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
教 育 原 理			専門教育 科 目	講 義	2	S110		
担当教員氏名			年 次	開講期	卒業要件	資 格		
乳 井 英 雄			1	前 期	必 修	幼	保	社
						◎	◎	◎
授業概要		①教育とは何か ②教育の変遷と現状把握 ③諸問題の発見とディスカッション						
到達目標		教育の本質、教育の意義、教育の思想に関する知識を身に付ける。また、現代社会の教育問題や学校・地域・家庭における教育の現状を理解できるようになる。						
授業の方法		補助教材等を利用して講義を行なう。また、部分的に演習やアクティブラーニング形式を導入して行なう。						
予習・復習等 及び必要時間(分)		指定文献を一読すること(30分)。講義内容を振り返り疑問点を考える(30分)。						
履修条件		特にありません。						
授 業 計 画								
1	ガイダンスおよび教育を考えることの意義		9	教育制度の現状と課題				
2	教育とは何かⅠ		10	生涯教育の現状と課題				
3	教育とは何かⅡ		11	保育と教育の歴史的変遷				
4	教育の思想についてⅠ		12	家庭・学校・地域と子どもの現状				
5	教育の思想についてⅡ		13	子どもに関する社会・教育問題				
6	家庭と教育の現状と課題		14	子どもと社会における諸問題の発見				
7	学校と教育の関連性		15	グループディスカッションとまとめ				
8	地域社会における教育の在り方							
教科書・参考文献		幼稚園教育要領および認定こども園教育・保育要領 「幼児教育の原理」 岸井勇雄						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法		レポートは授業内で返却して解説、テストは採点后に個別返却にて不足点を補う。						
卒業認定・学位授与の方針との関連		当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準		定期試験にて60点以上の学生に単位を認定する。なお、再々試験までの実施とする。						
実務経験と担当科目内容との関連								

科 目 名			分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
幼児理解の理論			専門教育 科 目	講 義	2	S112		
担当教員氏名			年 次	開講期	卒業要件	資 格		
阿 部 千 春			1	後 期	選 択	幼	保	社
						◎	◎	
授業概要	幼児の発達を理解し、個々の発達程度の違いや心の葛藤などを観察から捉える理論と技法を学ぶとともに、保護者に対する対応等を習得することを目的とします。							
到達目標	幼児の理解や対応に生かせる心理学やカウンセリングの理論と技法についての基礎的な知識を習得することをめざします。							
授業の方法	教科書と講義資料を用い、講義形式で行います。7回目以降から演習も取り入れていきます。授業内で行う試験の受験が単位認定の必須条件となります。							
予習・復習等 及び必要時間(分)	次の授業で取り上げるテーマについて教科書を読んで予習してください。(15分程度) 授業後は、講義資料とハンドブック、ワークブックを読んで復習し、学習した内容の要点をノートにまとめます。(30分程度)							
履修条件	特にありません							
授 業 計 画								
1	ガイダンス	9	カウンセリングの言語的技法②					
2	教育相談の現状とその必要性	10	カウンセリングの非言語的技法					
3	保育者・援助者の基本的な構え	11	対人関係・集団づくりに生かす理論と技法					
4	幼児期における心理的特性とその対応	12	アセスメントの方法と面接技法①					
5	幼児の理解と対応に生かすカウンセリングの基礎理論①	13	アセスメントの方法と面接技法②					
6	幼児の理解と対応に生かすカウンセリングの基礎理論②	14	保護者への対応					
7	幼児の理解と対応に生かすカウンセリングの基礎理論③	15	講義総括					
8	カウンセリングの言語的技法①							
教科書・参考文献	教科書：NPO 日本教育カウンセラー協会編「ピアヘルパーハンドブック」「ピアヘルパーワークブック」図書文化							
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	テスト解説を行うことで、誤答問題の見直しができるようにします。							
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目です。							
成績評価の方法及び基準	成績評価は、授業内試験(80%)、授業後に提出する感想カード(20%)によって総合的に評価し、単位認定を行います。							
実務経験と担当科目内容との関連								

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
保育内容総論		専門教育 科 目	演 習	2	S211		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
福 島 憲 成		1	後 期	選 択	幼	保	社
					◎	◎	
授業概要	「幼児教育で育みたい資質・能力」、「幼児期に育ってほしい姿」を5領域の関連の中で総合的に学ぶ。						
到達目標	各領域の内容を「ことば」を中心に捉えて、こどもの発達・実態に応じた保育力を身につける。						
授業の方法	①教育要領・保育指針の関連を理解する ②教育要領と「3つの資質・能力」、「育ってほしい10の姿」を理解する ③5領域の関連を理解する ④5領域を踏まえた保育の実践 ⑤評価と反省からの新たな保育計画						
予習・復習等 及び必要時間(分)	授業の課題作成やグループディスカッションの準備やまとめに1から2時間程度						
履修条件	特にありません。						
授 業 計 画							
1	ガイダンス「教育要領」「保育指針」から、教育の全体構造を理解する。	9	領域の繋がりを考えた保育の計画と実践Ⅴ(絵本・紙芝居作成の模擬保育)				
2	「幼稚園教育要領」における5領域を比較し、それぞれの関連性と全体構造を理解する。	10	領域の繋がりを考えた保育の計画と実践Ⅴ(劇・パネルシアターの指導案作成)				
3	幼稚園教育要領の歴史的変遷を理解し、認定こども園教育・保育要領への流れを考える。	11	領域の繋がりを考えた保育の計画と実践Ⅵ(劇・パネルシアターの模擬保育)				
4	幼稚園教育要領の「3つの資質・能力」「育ってほしい10の姿」を理解する。	12	模擬保育を通じての領域間連携の確認と結果の評価(グループワーク)				
5	発達と「3つの資質・能力」「育ってほしい10の姿」の本質と関連を考える。	13	模擬保育の結果を踏まえたPCDAサイクルの検討(グループワーク)				
6	領域の繋がりを考えた保育の計画と実践Ⅰ(手遊び・ゲームの指導案作成)	14	ディスカッション(グループワーク検討結果の全体発表)				
7	領域の繋がりを考えた保育の計画と実践Ⅱ(手遊び・ゲームの模擬保育)	15	5領域全体の振り返り(発表内容から今後の保育計画作成の展開へ)				
8	領域の繋がりを考えた保育の計画と実践Ⅲ(絵本・紙芝居作成の指導案作成)						
教科書・参考文献	幼稚園教育要領 「教育課程・保育課程」 千葉武夫編						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	課題の評価やグループディスカッション等でフィードバックを行う。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目です。						
成績評価の方法及び基準	授業への取り組み(20%)、授業内の課題(40%)、発表内容(40%)で評価する。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
教育心理学		専門教育 科 目	演 習	1	S113		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
藤 村 敦		1	前 期	必 修	幼	保	社
					◎	◎	
授業概要	教科書やプリントを用いて子どもの発達や学びについての代表的な理論を学ぶ。 学んだ理論を実際の保育場面に当てはめて考える演習を行う。						
到達目標	子どもの発達や学びについての代表的な理論について理解を深めるとともに、実際の保育場面において、どのように理論を生かすことができるのかについて自分なりの意見をもつことができる。						
授業の方法	主に講義形式で行い、教科書やプリントを用いて代表的な理論を理解する学習を行う。また、各理論について理解を深めるための演習も行う。理論の理解の程度を確認するために、小テストを2回行うとともに、理論をどのように生かすことができるかについて考えを深めるために、各講義で演習課題を行う。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	授業で扱うテーマについて、事前に教科書を読んでおいてください(30分程度)。授業後に配布プリント、教科書を基に、授業内容を振り返り、学んだ理論について、実際の保育場面に当てはめて説明することができるよう復習してください(30分程度)。						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	オリエンテーション(心理学と実践との関連)	9	子どもの学びを把握する(知能検査)				
2	子どもの発達①(発達段階を中心に)	10	子どものパーソナリティ				
3	子どもの発達②(心の理論を中心に)	11	子ども同士のかかわりの実際、小テスト1回目				
4	子どもの発達③(道徳性の発達を中心に)	12	学習評価				
5	子どもの学び①(学習理論)	13	個に応じた支援の在り方、小テスト2回目				
6	子どもの学び②(内発的動機づけ・外発的動機づけ)	14	発達障がいとその援助				
7	子どもの学び③(欲求階層構造説を中心に)	15	保育における発達援助				
8	記憶の仕方と学習						
教科書・参考文献	スタンダード教育心理学(サイエンス社)服部環・外山美樹編						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	授業内演習課題については、次の講義の冒頭で具体的な解答例を示し、振り返りを行うとともに、それについて解説を行う。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	授業内演習課題(70%)、授業内小テスト(30%)を基にして、総合的に評価を行い、60点以上で合格とする。						
実務経験と担当科目内容との関連	義務教育学校での指導経験のある教員が、具体的な事例を基にして授業を行う。						

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
教育課程論		専門教育 科 目	講 義	2	S115		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
飯 田 泰 子		1	後 期	選 択	幼	保	社
					◎	◎	
授業概要	幼児期にふさわしい生活を営むために、幼稚園・保育所・こども園等における指導計画立案の必要性について学習する。						
到達目標	幼児のありのままの姿を受け止め、幼児の発達の実状を見通した計画立案の大切さを感じ取り、幼児期の生活に見通しをもつことの重要性を学んでいくことを目的とする。						
授業の方法	教科書やプリントを用い、講義形式で行う。また、指導計画作成の演習を4～5回取り入れ、より実践的な学習を進めていく。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	授業で配布した資料とノートの要点をまとめる復習（30分）						
履修条件	特にありません。						
授 業 計 画							
1	ガイダンス・指導計画の意義	9	幼稚園遊戯会見学				
2	教育課程・保育計画と指導計画の関連	10	保育における反省・評価 演習（遊戯会レポート）				
3	演習（子どもに経験させたい年間の活動）	11	子育て支援と指導計画				
4	保育の実践と保育者の役割	12	幼稚園・保育所と小学校の連携				
5	長期・短期の指導計画	13	幼児理解と評価・指導計画改善のポイント （カリキュラムのPDCA サイクルの考え方）				
6	演習（日案の作成）	14	まとめの演習				
7	園行事の意義と役割	15	全講義復習と確認まとめ				
8	演習（週日案の作成）						
教科書・参考文献	幼稚園教育要領の解説(最新版)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(最新版)						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	演習やレポートの添削によるフィードバックを行う。						
卒業認定・学位授 与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目です。						
成績評価の方法及 び基準	演習、レポートの内容を総合的に評価する。60%以上で合格。						
実務経験と担当科 目内容との関連	現職幼稚園園長が、行事や実際の現場の事例を交え授業を行う。						

科 目 名			分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
保育内容研究Ⅱ（言葉）			専門教育 科 目	演 習	2	S311		
担当教員氏名			年 次	開講期	卒業要件	資 格		
小 山 貴 博			1	前 期	必 修	幼	保	社
						◎	◎	
授業概要	絵本の読み聞かせや、保育者や周りの大人たちの発する言葉によって、子どもがどのように言葉を獲得するのか、理解する。							
到達目標	領域「言葉」の重要性を理解することを最終的なねらいとし、言葉を獲得することの楽しさや難しさを学びつつ 言葉の発達についても学習をすすめる。レポート提出が単位認定の必須条件。							
授業の方法	基本的に、課題を提示し、アクティブラーニング形式で行う。							
予習・復習等 及び必要時間(分)	教科書について各回 30 分程度の予習が必要、また、演習形式の講義時に提示する課題においては、 十分な復習、事前準備を要する。							
履修条件	特にありません。							
授 業 計 画								
1	ガイダンス	9	領域「言葉」とその他領域との関連性と意義②					
2	アクティブラーニング-言葉がない世界の体験-①	10	合唱-歌詞を大切に歌うことの意義-①					
3	アクティブラーニング-言葉がない世界の体験-②	11	合唱-歌詞を大切に歌うことの意義-②					
4	アクティブラーニング-言葉がない世界の体験-③	12	合唱-歌詞を大切に歌うことの意義-③					
5	ロールプレイング-保育現場を想定して-①	13	グループワーク-絵本の読み聞かせ-					
6	ロールプレイング-保育現場を想定して-②	14	グループワーク-絵本の読み聞かせ-					
7	ロールプレイング-保育現場を想定して-③	15	前期講義総括					
8	領域「言葉」とその他領域との関連性と意義①							
教科書・参考文献	適宜資料を配布する。							
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	前期総括時に、レポートのフィードバックを行なう。							
卒業認定・学位授 与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目です。							
成績評価の方法及 び基準	レポート（100%）							
実務経験と担当科 目内容との関連								

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
保育内容研究Ⅲ(環境)		専門教育 科 目	演 習	2	S312		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
毛 利 悦 子		1	前 期	必 修	幼	保	社
					◎	◎	
授業概要	○幼児期における環境の意味、○子どもと環境とのかかわり、○領域「環境」にかかわる指導の実際、○環境問題と子どもの生活について理解を深める。						
到達目標	子どもと環境について探求し、持論をレポートにまとめる。						
授業の方法	教科書、DVD、担当教員作成資料を用い、講義及びグループ協議を行う。学外授業で地域環境を活用するとともに、情報機器を活用し学友の深化を図るようにする。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	教材研究、レポート作成に相当の時間が必要。						
履修条件	特にありません。						
授 業 計 画							
1	ガイダンス 幼児教育の基本と環境	9	保育の実際「物や道具にかかわって遊ぶ」				
2	領域「環境」の内容及び一年間の園生活	10	保育の実際「文字や数量図形に関心をもつ」				
3	保育の実際「自然にふれる春・夏」	11	保育の実際「地域の文化や伝承遊びに親しむ」				
4	保育の実際「自然にふれる秋」	12	指導計画と具体的な環境構成				
5	保育の実際「自然にふれる冬」	13	子どもとメディア環境				
6	保育の実際「生き物に親しみ、生命を大切にする」	14	現代社会における環境問題と子どもの生活①				
7	保育の実際「自然を取り入れて生活する」	15	現代社会における環境問題と子どもの生活②				
8	保育の実際「子どもと地域環境」						
教科書・参考文献	幼稚園教育要領解説 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園保育・教育要領						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	レポート作成に当たっては、自然観察の仕方や関連資料の紹介、内容などを個別に助言・指導を行う。						
卒業認定・学位授 与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目です。						
成績評価の方法及 び基準	提出されたレポート等の課題評価 3回(100%)						
実務経験と担当科 目内容との関連	前職(幼稚園教諭・教頭・園長)時の論文・研究発表資料等を資料及び教材として使用し、経験で得た事例や内容を基に、保育内容を講義する。						

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
保育内容指導Ⅲ（環境）		専門教育 科 目	演 習	2	S317		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
毛 利 悦 子		1	後 期	選 択	幼	保	社
					◎	◎	
授業概要	領域「環境」にかかわる具体的な保育内容、指導計画、援助及び環境構成について探求する。 「感じる 体験する 調べる 考える 発表する」保育を探求する。						
到達目標	応答的、想像的な保育の在り方を知り、実践力を身につける。						
授業の方法	担当教員作成資料、DVD を用い、講義及びグループ演習、模擬保育等を行う。 学外授業等で地域・自然環境を活用するとともに情報機器を活用し学習の深化を図るようにする。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	教材研究、レポート作成に相当の時間が必要。						
履修条件	特にありません。						
授 業 計 画							
1	ガイダンス 子どもの発達と環境及び援助 乳児期の幼児	9	模擬授業①「自然を取り入れた生活」指導計画の立案 と教材準備				
2	子どもの発達と環境及び援助 満3歳未満の幼児	10	模擬保育①「自然を取り入れた生活」実施、振り返りと まとめ				
3	子どもの発達と環境及び援助 満3歳以上の幼児	11	模擬保育②「探求的な体験」指導内容の検討				
4	領域「環境」保育の実際 地域環境を活用した保育	12	模擬保育②「探求的な体験」指導計画の立案と教材準備				
5	領域「環境」保育の実際 メディアを活用した保育	13	模擬保育②「探求的な体験」実施、振り返りとまとめ				
6	幼児期におけるアクティブラーニング	14	学外授業② 地域の文化や伝承遊びに親しむ				
7	幼稚園と小学校のつながり 領域「環境」と小学 「生活」	15	まとめ 創造的・発展的な保育の探求				
8	学外授業 地域の環境と生活						
教科書・参考文献	幼稚園教育要領解説 保育所保育指針解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	レポートについては、自然観察とその取り入れ方、関連資料の紹介、内容等を個別に助言指導を行う。 演習(模擬保育)については、グループ別に指導計画の立案、教材準備、環境構成などについて 助言を行う。						
卒業認定・学位授 与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目です。						
成績評価の方法及 び基準	演習2回(50%) 提出されたレポートの課題評価(50%)						
実務経験と担当科 目内容との関連	前職（幼稚園教諭・教頭・園長）時の論文・研究発表資料等を資料及び教材として使用する。 又、経験で得た事例や内容を伝える。						

科 目 名			分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
教育方法論			専門教育 科 目	講 義	2	S116		
担当教員氏名			年 次	開講期	卒業要件	資 格		
乳 井 英 雄			1	後 期	選 択	幼	保	社
						◎		
授業概要		①教育方法と教育要領 ②3つの方法論 ③遊びを通じて育むとは ④プレゼンテーション						
到達目標		教育・保育の方法理論とその技法を身に付ける。また、幼稚園教育要領を理解した上で、育みたい資質・能力を踏まえた指導方法を習得し、保育全体を見渡す知識・技能を身に付ける。						
授業の方法		補助教材等を利用して講義を行なう。また、部分的に演習やアクティブラーニング形式を導入して行なう。						
予習・復習等 及び必要時間(分)								
履修条件		特にありません。						
授 業 計 画								
1	ガイダンスおよび教育方法を学ぶことの意義		9	参加包育の方法論Ⅱ				
2	保育と幼児教育の考え方		10	5領域の理解とカリキュラムの課題				
3	教育方法における根拠と教育要領の関係性		11	育みたい資質・能力に基づいた評価の理解				
4	導く保育の方法論Ⅰ		12	保育における教材活用の理論と方法				
5	導く保育の方法論Ⅱ		13	保育環境における情報機器の活用と展開				
6	見守る保育の方法論Ⅰ		14	グループディスカッション				
7	見守る保育の方法論Ⅱ		15	全体プレゼンテーションとまとめ				
8	参加包育の方法論							
教科書・参考文献		幼稚園教育要領 こども園教育・保育要領 「教育課程の理論」 磯部裕子						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法		レポートは授業内で返却して解説、テストは採点後に個別返却にて不足点を補う。						
卒業認定・学位授 与の方針との関連		当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目です						
成績評価の方法及 び基準		定期試験にて60点以上の学生に単位を認定する。なお、再々試験までの実施とする。						
実務経験と担当科 目内容との関連								

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
教育実習事前事後指導		専門教育 科 目	演 習	※	S407		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
毛 利 悦 子		1	前 期	選 択	幼	保	社
					◎		
授業概要	附属認定こども園・附属大野幼稚園での基本実習のための事前指導、実習指導、事後指導を行い、心構えや準備、子ども理解、指導計画の理解を図る。						
到達目標	体験を通して、子ども理解、幼稚園教育の役割を理解し、2年時の幼稚園教育実習への意欲を高める。						
授業の方法	教科書・ビデオを用いる授業形式と指導計画の立案、教材研究（絵本の選択、読み語り等）の演習形式行う。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	教材研究、レポート作成に相当の時間が必要						
履修条件	特にありません。						
授 業 計 画							
1	ガイダンス 教育実習の概要	9	教材研究①				
2	教育実習の目的	10	教材研究②				
3	教育実習の心構えと準備①	11	指導計画の立案				
4	教育実習の心構えと準備②	12	教育実習に対する自己課題				
5	教育実習の心構えと準備③	13	教育実習事後指導 グループ協議①				
6	附属認定こども園見学と子どもとのふれあい	14	教育実習事後指導 グループ協議②				
7	子ども理解と教師の役割①	15	教育実習事後指導 自己評価 まとめ				
8	子ども理解と教師の役割②						
教科書・参考文献	自分でつくる BOOK&NOTE 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	教材研究、指導計画の立案、レポート作成については個別に、助言指導を行う。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目です						
成績評価の方法及び基準	教材研究及び指導案作成（40％）レポート3回（60％） 2年次教育実習の単位と連携させており、教育実習が不可の場合は、この単位も認定されない。 ※2年次、教育実習事前事後指導と合わせて1単位となる。						
実務経験と担当科目内容との関連	前職（幼稚園教諭・教頭・園長）時の論文・研究発表資料等を資料及び教材として使用する。 又、経験で得た事例や内容を伝える。						

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
こども園・幼稚園体験活動		専門教育 科 目	実 習	1	S409		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
実習担当教員		1	集 中	選 択	幼	保	社
					◎		
授業概要	幼稚園免許を取得するための必修科目。附属認定こども園・大野幼稚園において、保育体験を及び園行事への参加をし、教師の役割と援助の実践について学ぶ。						
到達目標	子ども理解、幼稚園教諭の役割を理解し、2年次の教育実習への意欲を高める。						
授業の方法	附属認定こども園、附属大野幼稚園における体験学習。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	体験学習の目的、教師の役割と援助についての予習の時間、絵本の語り聞かせの教材研究及び準備について相当の時間が必要。						
履修条件	特にありません。						
授 業 計 画							
1	園生活一日の流れの観察と記録(継続) 子どもたちの生活の援助と子ども理解(継続) 一日の振り返りと環境整備(継続) 部分保育指導計画の立案と教材研究及(継続)						
2	部分保育指導計画の見直しと教材準備						
3	部分保育の教材準備						
4	部分保育の実施と評価・反省						
5	体験学習全体の評価・反省						
6	園行事(運動会等)への参加						
7	園行事(遊戯会等)への参加						
教科書・参考文献	自分でつくる BOOK&NOTE 幼稚園教育要領解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	実習園の評価・日誌・レポートにより2年次の教育実習に向け、不足を補いフィードバックしていく。						
卒業認定・学位授 与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目です。						
成績評価の方法及 び基準	実習園の評価(50%) 実習日誌(30%) レポート(20%)						
実務経験と担当科 目内容との関連							

科 目 名			分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
ピアノ表現法Ⅰ			専門教育 科 目	演 習	1	S318		
担当教員氏名			年 次	開講期	卒業要件	資 格		
相原千鶴子・斎藤佳子・谷藤有紀・山本和生			1	通 年	選 択	幼	保	社
授業概要			ピアノ技術の質の向上を目的とする科目として位置づける。 保育士として必要なピアノ技術の更なる向上と自らの教職への適性を検討し、意欲を高める。					
到達目標			子どもたちの表現力豊かな感性を育める音楽環境を、子供たちと一緒に楽しめる保育者を目指す。					
授業の方法			教材を用い、個人レッスン形式で行い、音楽の基礎を修得させる。					
予習・復習等 及び必要時間(分)			毎日の予習、復習を習慣づけるようにする（１時間程度）必要がある。					
履修条件			特にありません。					
授 業 計 画								
1	ガイダンス・シラバス説明		16	ト長調の和音…主和音・属和音No.35・No.36				
2	ハ長調の和音…主和音・属七和音No.1～No.4		17	ト長調の下属和音No.37・No.38				
3	分散和音の伴奏形（その１・その２）		18	いろいろな伴奏形（その１・その２）				
4	分散和音の伴奏形（その３・その４）		19	いろいろな伴奏形（その３・その４）				
5	４分音符と８分音符のリズムNo.21・No.22		20	高音部 No.43・No.44				
6	４分音符と８分音符のリズムNo.23・No.24		21	高音部 No.45・No.46				
7	ハ長調の下属和音No.25・No.26 小テスト		22	４分の３拍子と８分の３拍子				
8	ヘ長調の和音…主和音・属和音No.27・No.28		23	８分の３拍子と８分の６拍子				
9	ヘ長調の和音…主和音・属和音No.29・No.30		24	符点音符のリズムNo.49・No.50				
10	ヘ長調の下属和音No.31・No.32		25	符点音符のリズムNo.51・No.52				
11	ト長調の和音…主和音・属和音No.33・No.34		26	符点音符のリズムNo.53・No.54				
12	課題の練習①		27	課題の練習①				
13	課題の練習②		28	課題の練習②				
14	課題の練習③		29	課題の練習③				
15	課題の練習、小テスト		30	課題の練習、小テスト				
教科書・参考文献			教職課程のための大学ピアノ教本					
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法			小テストによるフィードバック					
卒業認定・学位授 与の方針との関連			当該学科の卒業認定・学位授与の方針「２」に該当する科目です。					
成績評価の方法及 び基準			小テスト２回各２０点・試験６０点とする					
実務経験と担当科 目内容との関連								

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
幼児総合研究		自由選択 科 目	演 習	2	F101		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
福 島 憲 成		1・2	前期・集中	選 択	幼	保	社
授業概要	保育者・教育者として自らがどう輝くかを学ぶ。 見えない者が見えるように、知識を高める。 見えている者が本当に見えるように心を育てる。 より高くジャンプできるように体をきたえる。						
到達目標	子供たちの「いのち」（智・心・体）を大きく伸ばせる教育者としての総合力を身につける。						
授業の方法	講義で学んだことを必ず実践・発表し、相互に評価し合って授業を展開していきます。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	講義で学ぶ理念・テーマ・課題について、実践発表のための制作・練習が重要です 予習練習 30 分・復習 1 時間程度						
履修条件	特にありません。						
授 業 計 画							
1	ガイダンス・幼児総合研究の目的	9	光と影で遊ぶ 手影絵・指影絵				
2	輪になって遊ぼう	10	人形で遊ぶ 誰でも出来る腹話術				
3	仲間作り 手遊び・ゲームの実践	11	劇遊び パネルシアターの制作				
4	仲間作り 手遊び・ゲームの実践	12	制作実践				
5	ことばを楽しむ 絵本の読み聞かせ	13	制作実践				
6	紙芝居	14	作品発表				
7	語り童話	15	合評				
8	絵描き歌						
教科書・参考文献	担当者の自主編集						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	作品の提出の評価により個々にフィードバックを行う。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目です。						
成績評価の方法及び基準	レポート・提出物・及び課題ごとの発表の評価（細かいポイントを事前に示した到達目標表）等、 2年次実施内容と総合的に評価する。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
国際保育理解		自由選択科目	演 習	1	F102		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
こども学科担当教員		1	集 中	選 択	幼	保	社
授業概要	世界がグローバル化している時代にあって、私たちがより平和な、質の高い国際的交流協力関係を築いていくためには、言語、文化、歴史の理解はもとより、国際的な交流や協力の意義、それに内在する諸問題を深く理解していかなければならない。この講座は、函館市と姉妹都市関係にある韓国高陽市への研修旅行を軸にして韓国の幼稚園・保育園訪問・見学・交流を行う。						
到達目標	アジアから世界へと広く繋がっている世界を体験的に学ぶことと国際保育の理解を目標とする。						
授業の方法	韓国研修旅行の事前研修（講義）と韓国研修旅行により行う。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	研修旅行を充実したものにするためには、十分な事前学習が必要で、事前研究前に韓国文化を調べるなどの1時間ほどの事前学習が必要。						
履修条件	学年・学校は問わず、コンソーシアム函館に加盟している学校の単位互換として、函館の他短大・大学の学生の参加も可能。						
授 業 計 画							
1	講義 オリエンテーション	9	研修旅行				
2	事前研修 韓国語	10	研修旅行				
3	事前研修 日韓の歴史的関係	11	研修旅行				
4	事前研修 韓国の衣食住文化	12	研修旅行				
5	事前研修 海外旅行の準備・注意点	13	研修旅行				
6	研修旅行	14	研修旅行				
7	研修旅行	15	研修旅行のまとめ				
8	研修旅行						
教科書・参考文献	なし						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	研修の準備段階において、浴衣の着付けや語学の勉強が含まれる。着付けにおいては、できた点や改善点を、語学においては復習内容と成果を事前研修時間内でコメントとしてフィードバックする。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位の授与の方針の「2」「3」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	事前研修への参加状況 40%、国際交流の意欲および現地交流参加度 30%、レポート 30%、による総合評価。						
実務経験と担当科目内容との関連							

オフィスアワーについて(2021 年度)

オフィスアワーとは

オフィスアワーは、学生が授業のことや学校生活のことなどについて、質問・相談あるいは個人的に指導を受けるために設定された時間です。充実したキャンパスライフを過ごすために、有効に活用してください。

なお、オフィスアワーに設定されている時間であっても、会議や出張等で不在になる場合は各研究室前に掲示します。

また、オフィスアワー時間帯以外でも質問・相談等を受けますので、各教員の都合を確認してください。

オフィスアワーの曜日・時間

教 員 氏 名	曜 日	時 間 帯
福 島 憲 成	木曜日	1 6 : 2 5 ~ 1 7 : 2 5
藤 野 明 信	水曜日	1 6 : 2 5 ~ 1 7 : 2 5
江 端 深 雪	金曜日	1 6 : 2 5 ~ 1 7 : 2 5
神 林 眞 里	水曜日	1 6 : 2 5 ~ 1 7 : 2 5
乳 井 英 雄	水曜日	1 6 : 2 5 ~ 1 7 : 2 5
毛 利 悦 子	月曜日	1 6 : 2 5 ~ 1 7 : 2 5
山 田 陽 子	火曜日	1 6 : 2 5 ~ 1 7 : 2 5
渋 田 昌 士	月曜日	1 6 : 2 5 ~ 1 7 : 2 5
阿 部 千 春	木曜日	1 6 : 2 5 ~ 1 7 : 2 5
渡 谷 能 孝	月曜日	1 6 : 2 5 ~ 1 7 : 2 5
伊 藤 聡	月曜日	1 6 : 2 5 ~ 1 7 : 2 5
藤 村 敦	火曜日	1 6 : 2 5 ~ 1 7 : 2 5
濱 嶋 幸 司	水曜日	1 6 : 2 5 ~ 1 7 : 2 5
小 山 貴 博	木曜日	1 6 : 2 5 ~ 1 7 : 2 5
伊 藤 好 一	金曜日	1 6 : 2 5 ~ 1 7 : 2 5
池 田 隼	金曜日	1 6 : 2 5 ~ 1 7 : 2 5



www.hakodate-otani.ac.jp



HAKODATE OTANI COLLEGE

講義概要 2022 こども学科 2年

2022年 こども学科カリキュラム (2021 年度入学者)

分類	科 目	科目 No.	実務経験のある教員による授業科目	授業区分	単位	授業形態	時間	2021 年(終了)		2022 年(2年)		卒業要件	幼児	保育士	社会福祉主事(任)
								前期	後期	前期	後期				
教養教育科目	人 間 学 I	E101		講義	2	合同	2	2				◎		◎	
	人 間 学 II	E102		講義	2	合同	2		2			△		○	
	こ こ ろ の 科 学	E103		講義	2	合同	2	2				△		◎	
	日 本 国 憲 法	E104		講義	2	合同	2	2				△	◎	○	
	障 害 者 福 祉 論	E105		講義	2	分離	2				2	△		○	◎
	現 代 地 域 学 論	E106		講義	2	集中	2					△			
	情 報 処 理 演 習	E107		演習	2	分離	2	2				△	◎	○	
	英 語	E201		演習	2	合同	2		2			△		◎	
	英 会 話	E202		演習	2	分離	2	2				△	◎	○	
	健 康 科 学 論	E301		講義	1	合同	1	1				△	◎	◎	
	健 康 と ス ポ ー ツ	E302		実習	1	合同	3	3				△	◎	◎	
専門教育科目	幼 児 音 楽	S301		演習	2	分離	2	2				◎	◎	◎	
	保 育 音 楽	S302		演習	1	分離	2		2			○		◎	
	音 楽 表 現 演 習 I	S303		演習	1	分離	2			2		◎		◎	
	音 楽 表 現 演 習 II	S304		演習	1	分離	2				2	○		◎	
	音 楽 実 践	S305		演習	1	分離	2		2			○		◎	
	幼 児 美 術	S306		演習	2	分離	2	2				◎	◎	◎	
	保 育 造 形	S307		演習	1	分離	2		2			○		◎	
	幼 児 体 育	S308		演習	2	分離	2			2		◎	◎	◎	
	保 育 体 育	S309		演習	1	分離	2				2	○		◎	
	基 礎 国 語	S101		講義	2	合同	2	2				○	◎	◎	
	児 童 文 化 I	S102	●	講義	2	合同	2			2		◎		◎	
	社 会 福 祉	S103		講義	2	合同	2	2				○		◎	◎
	保 育 の 心 理 学	S201		講義	2	合同	2		2			○		◎	
	子ども家庭支援の心理学	S202		講義	2	合同	2			2		○		◎	
	子 育 て 支 援	S203		演習	1	分離	2		2			○		◎	
	子ども家庭福祉	S204		講義	2	合同	2		2			◎		◎	
	子ども家庭支援論	S205		講義	2	合同	2				2	○		◎	
	保 育 原 理	S104		講義	2	合同	2	2				◎		◎	◎
	保 育 原 理 II	S105		講義	2	合同	2				2	○	◎	◎	
	社 会 的 養 護 I	S106		講義	2	合同	2		2			○		◎	
	社 会 的 養 護 II	S107	●	演習	1	合同	2			2		○		◎	
	保 育 実 習 指 導 I	S401		演習	2	分離	4		4			○		◎	
	保 育 実 習 指 導 II	S402		演習	1	合同	1			1		○		◎	
	保 育 実 習 指 導 III	S403		演習	1	合同	1			1		○		◎	
	保 育 実 習 I	S404		実習	4	集中	12		6	6		○		◎	
	保 育 実 習 II	S405		実習	2	集中	6			6		○		◎	
	保 育 実 習 III	S406		実習	2	集中	6			6		○		◎	
	こ ゝ も の 保 健	S206		講義	2	合同	2			2		◎		◎	
	こ ゝ も の 食 と 栄 養	S207		演習	2	分離	2		2			○		◎	
	こ ゝ も の 健 康 と 安 全	S208		演習	1	分離	2				2	◎		◎	
	乳 児 保 育 I	S209		講義	2	合同	2	2				○		◎	
	乳 児 保 育 II	S210		演習	1	分離	2		2			○		◎	

分類	科 目	科目 No.	実務経験のある教員による授業科目	授業区分	単位	授業形態	時間	2021 年(終了)		2022 年(2年)		卒業要件	幼 免	保 育 士	社会福祉主事(任)
								前期	後期	前期	後期				
専門教育科目	特別支援教育「基礎」	S108	●	演習	2	合同	2			2		○	◎	◎	
	教育カウンセリング	S109		講義	2	合同	2			2		○	◎		
	教 育 原 理	S110		講義	2	合同	2	2				◎	◎	◎	◎
	保 育 者 ・ 教 師 論	S111		講義	2	合同	2				2	○	◎	◎	
	幼 児 理 解 の 理 論	S112		講義	2	合同	2		2			○	◎	◎	
	保 育 内 容 総 論	S211		演習	2	合同	2		2			○	◎	◎	
	教 育 心 理 学	S113		演習	1	合同	2	2				◎	◎	◎	
	教 育 財 政 学	S114		講義	1	合同	1			1		○	◎		
	教 育 課 程 論	S115		講義	2	合同	2		2			○	◎	◎	
	保育内容研究Ⅰ（人間関係）	S310		演習	2	合同	2				2	◎	◎	◎	
	保育内容研究Ⅱ（言葉）	S311		演習	2	合同	2	2				◎	◎	◎	
	保育内容研究Ⅲ（環境）	S312		演習	2	分離	2	2				◎	◎	◎	
	保育内容研究Ⅳ（健康）	S313		演習	2	分離	2			2		◎	◎	◎	
	保育内容研究Ⅴ（表現）	S314		演習	2	分離	2			2		◎	◎	◎	
	保育内容指導Ⅰ（健康）	S315		演習	2	分離	2				2	○	◎	◎	
	保 育 内 容 指 導 Ⅱ （人間関係・言葉・表現）	S316		演習	2	分離	2			2		○	◎	◎	
	保育内容指導Ⅲ（環境）	S317		演習	2	分離	2		2			○	◎	◎	
	教 育 方 法 論	S116		講義	2	合同	2		2			○	◎		
	教育実習事前事後指導	S407		演習	1	合同	2	1		1		○	◎		
	教 育 実 習	S408		実習	3	集中	9				9	○	◎		
	こども園・幼稚園体験活動	S409		実習	1	集中	3	3				○	◎		
	保育・教職実践演習（幼稚園）	S410	●	演習	2	分離	2				2	○	◎	◎	
	ピ ア ノ 表 現 法 Ⅰ	S318		演習	1	分離	2	1	1			○			
	ピ ア ノ 表 現 法 Ⅱ	S319		演習	1	分離	2			1	1	○			

◎印は卒業及び、幼免・保育士の必修科目です。

卒業するためには、その他に△印の中から 12 単位以上、○印の中から 23 単位以上履修すること。保育士の資格を取得する学生は、○印の中から選択必修。

※実習履修について

—教育実習（幼稚園本実習）—

教育実習（本実習）は、実習前において開講している学則必修科目および幼稚園教諭二種免許状取得科目に関して未修得がある場合、または修得見込みが立たない場合は教育実習（本実習）を履修することはできない。

実習中止および実習成績「不可」、再実習、実習延長等については、「実習中止・再実習等に関する学科規程」に別途定める。

—保育実習（保育園・施設）—

実習前において開講されている学則必修科目、および保育士資格取得科目に関して未修得がある場合、または修得の見込みが立たない場合、保育実習を履修することはできない。

実習中止および実習成績「不可」、再実習、実習延長等については、「実習中止・再実習等に関する学科規程」に別途定める。

保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの実習期間、時間数については、各々概ね 10 日間 80 時間以上とする。

こども学科コース選択科目

分類	科 目	科目 No.	実務経験 のある教 員による 授業科目	授業 区分	単 位	授業 形態	時 間	2021 年(終了)		2022 年(2年)		備 考
								前期	後期	前期	後期	
幼児教育	こ だ も の 造 形 と 遊 び	S501		演習	1	幼教	2			2		
	こ だ も の 音 楽 と 遊 び	S502		演習	1	幼教	2			2		
	こ だ も の 健 康 と 遊 び	S503		演習	1	幼教	2				2	
保育福祉	社 会 福 祉 法 制	S601		講義	2	保福	2			2		社会福祉主事(任)
	ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 論	S602		講義	2	保福	2				2	
	福祉住環境コーディネーターⅠ	S603		演習	1	保福	2			2		
保育心理	教育カウンセリング心理学	S701		演習	1	保心	2				2	
	セ ラ ピ ー 概 論	S702		講義	2	保心	2			2		
	保 育 心 理 演 習	S703		演習	1	保心	2			2		

自由選択科目

※自由選択科目の単位は卒業単位数には算入しない。

分類	科 目	科目 No.	実務経験 のある教 員による 授業科目	授業 区分	単 位	授業 形態	時 間	2021 年(終了)		2022 年(2年)		備 考
								前期	後期	前期	後期	
	幼 児 総 合 研 究	F101		演習	2	合同	4	2			集中	
	国 際 保 育 理 解	F102		演習	1	合同	2		集中			海外研修
	ウ イ ン タ ー ス ポ ー ツ	F103		演習	1	合同	2				集中	

●実務経験のある教員による授業科目の単位合計数 ： 7 単位

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
障害者福祉論		教養教育 科 目	講 義	2	E105		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
渡 谷 能 孝		2	後 期	選 択	幼	保	社
						○	◎
授業概要	障がい者にまつわる法律や制度など、歴史的変容、法体系、障害の種類と対応などの基礎的な知識を学習し、これからの障がい者支援について考えていく。						
到達目標	障害者福祉に関する基礎的な知識の習得、障がいの状況に応じた支援の在り方、具体的な支援方法について理解を深めることをねらいとする。						
授業の方法	スライドとプリントを用いた講義形式で授業を行う。また、現代における障がい者にかかわる福祉課題などについて、グループディスカッションを通して考える。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	毎回、講義終了時に予告する次週の授業テーマについて、予め自己学習を行う。（15分程度）。スライド表示したものや配布したプリントを再確認して復習（20分程度）。						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	認知症①（症状の理解）				
2	障がいのとらえ方（ICF）	10	認知症②（支援）				
3	ノーマライゼーション	11	リハビリテーション				
4	障がい者の生活実態	12	レクリエーション				
5	日本における障がい者福祉施策	13	障がい者雇用				
6	バリアフリーとユニバーサルデザイン	14	障がい者の福祉課題（グループディスカッション）				
7	高次脳機能障害	15	講義内容の振り返り				
8	パーキンソン病						
教科書・参考文献	講義内で随時紹介						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	授業内試験の実施後に返却して解答、解説を行うことで、各々の理解度を再確認する。						
卒業認定・学位授 与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位の授与の方針の「3」に該当する科目である。						
成績評価の方法及 び基準	授業内試験（100％）を評価の原則とし、グループディスカッション（積極性、論理的思考、他者への配慮）の実施状況から、授業の到達目標の達成度合いを含めて総合的に判断して評価します。再々試験まで単位認定を行う。						
実務経験と担当科 目内容との関連							

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
音楽表現演習 I		専門教育 科 目	演 習	1	E303		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
江 端 深 雪		2	前 期	必 修	幼	保	社
					◎		
授業概要	保育において使用する楽器の基礎的奏法を理解し、グループ合奏の実践において習熟する。 また、ピアノをはじめとする様々な保育楽器の演奏により、多様な音楽基礎能力の向上を図り 総合的な音楽力を習得するための授業を展開する。						
到達目標	ピアノ演奏以外に、合奏などのグループワークを通して、自らが音楽の楽しさを感じることで 表現の世界を広げ、子どもと共に音楽を楽しめる実践的保育技術を獲得する。						
授業の方法	器楽合奏・ピアノに加え、ボディパーカッションやミュージックベル演奏などバリエーション 豊かな表現活動を行う。また年齢別を含めた保育楽器の基本的な奏法を理解し、グループでの 合奏練習、発表と振り返りを実施する。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	ピアノ演奏については個人練習に因るところが非常に大きいため、毎日最低 30 分～1 時間以上の 反復練習が必要。合奏曲における担当パートの演奏練習。						
履修条件	特にありません。						
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	保育楽器の基礎的奏法 年齢別合奏法				
2	ML によるピアノ演奏学習 ①	10	こどもの歌を中心とした合奏曲 ①				
3	ボディパーカッション ①	11	発表と振り返り				
4	ボディパーカッション ②	12	こどもの歌を中心とした合奏曲 ②				
5	ミュージックベルアンサンブル①	13	発表と振り返り				
6	ミュージックベルアンサンブル②	14	ML によるピアノ演奏学習 ② (実習前学習)				
7	レパートリー自由曲小テスト	15	ピアノ・弾き歌い小テスト				
8	スティック使用によるリズム応用練習						
教科書・参考文献	楽しいボディパーカッション・リズムで発表会(音楽之友社)						
課題(レポート・テ ストを含む)に対する フィードバックの方法	ピアノ演奏については、各個人へ習熟度に応じたアドバイスをを行い、今後の学習に反映させる。 他においては、実際の保育現場での活用方法を確認しながら、振り返りを行う。						
卒業認定・学位授 与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」「2」に該当する科目である。						
成績評価の方法及 び基準	ピアノ・弾き歌い小テスト合格が必須条件(60%) レパートリー自由曲小テストなど(10%) グループにおける活動状況および楽器演奏(20%) 合奏曲の完成度(10%)						
実務経験と担当科 目内容との関連							

科 目 名			分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
音楽表現演習 II			専門教育 科 目	演 習	1	E304		
担当教員氏名			年 次	開講期	卒業要件	資 格		
江 端 深 雪			2	後 期	選 択	幼	保	社
							◎	
授業概要		「音楽表現演習Ⅰ」のサブ科目として位置付け、グループ合奏などを通じて、より発展的・主体的に音楽と関わることで保育の内容・方法を深化させ、保育者としての音楽的資質の向上を図る。						
到達目標		多人数で音楽を作り上げる過程において表現の楽しさを体感し、幅広い目と豊かな感性を持って子どもの理解、支援ができる保育者を目指す。						
授業の方法		ML を使用してのピアノ演奏、既成器楽曲による合奏練習に加え、最終的にはグループの個性を活かした選曲により、自己の音楽観を形成することができるよう音楽活動を実践する。						
予習・復習等 及び必要時間(分)		ピアノ演奏については個人練習に因るところが非常に大きいため、毎日最低 30 分～1 時間以上の反復練習が必要。合奏曲における各自パートの演奏練習。						
履修条件		特にありません。						
授 業 計 画								
1	ガイダンス		9	子どもの表現あそび ①				
2	ML によるピアノ演奏学習 ①		10	子どもの表現あそび ②				
3	季節を中心とした合奏曲 ①		11	自由選択による合奏曲 グループワーク ①				
4	発表と振り返り		12	グループワーク ②				
5	季節を中心とした合奏曲 ②		13	グループワーク ③				
6	発表と振り返り		14	総合発表とまとめ 振り返り				
7	ML によるピアノ演奏学習 ②		15	ピアノ・弾き歌い小テスト				
8	レパートリー自由曲小テスト							
教科書・参考文献		年齢別 2～5 歳児合奏楽譜百科(ひかりのくに)						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法		ピアノ演奏については、各個人へ習熟度に応じたアドバイスをを行い、今後の学習に反映させる。 合奏では、個別に楽器奏法の確認、修正を行い、発表後の演奏評価を踏まえて、練習過程を含めた成果と反省点についてフィードバックシートを提出。						
卒業認定・学位授与の方針との関連		当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」「2」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準		ピアノ・弾き歌い小テスト合格が必須条件(60%) レパートリー自由曲小テストなど(10%) グループにおける活動状況および楽器演奏(20%) 合奏曲の完成度(10%)						
実務経験と担当科目内容との関連								

科 目 名			分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
幼 児 体 育			専門教育 科 目	演 習	2	S308		
担当教員氏名			年 次	開講期	卒業要件	資 格		
池 田 隼			2	通年(前期)	必 修	幼	保	社
						◎	◎	
授業概要	運動遊びの実践を通し、運動明日事の楽しさや運動の特性を踏まえた指導・援助方法などについて実践を通して学ぶ。							
到達目標	運動遊びの実践を通して、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法や保育実践の評価方法について学びを深めることを目的とする。							
授業の方法	主に実技形式で行う。運動遊びの実践を通し、運動することの楽しさや運動の特性を踏まえた指導・援助方法など実践を通して学習する。							
予習・復習等 及び必要時間(分)	創作ダンスの振り作成案などの予習が必要である。(2時間程度)							
履修条件	特にありません。							
授 業 計 画								
1	ガイダンス	9	ボール遊び③蹴る					
2	鬼あそび①	10	サーキットあそび					
3	鬼あそび②	11	表現遊び(ダンス①)					
4	鬼あそび③	12	表現遊び(ダンス②)					
5	縄あそび①	13	表現遊び(ダンス③)					
6	縄あそび②	14	表現遊び(ダンス④)					
7	ボール遊び①とる	15	表現遊び(ダンス発表)					
8	ボール遊び②投げる							
教科書・参考文献	保育と幼児期の運動遊び 萌文書林 幼児期における運動発達と運動遊びの指導 ミネルヴァ書房							
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	単元ごとのレポートの内容についてフィードバックを行う。また、単元ごと遊びの要点を再確認した後、遊びやねらいに応じた指導・援助方法について理解を深める。							
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目である。							
成績評価の方法及び基準	実技(80%) レポート(20%)を基にして、総合的に評価を行い60点以上で合格とする。 ※ 後期と合わせて2単位とする。							
実務経験と担当科目内容との関連								

科 目 名			分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
保 育 体 育			専門教育 科 目	演 習	1	S309		
担当教員氏名			年 次	開講期	卒業要件	資 格		
池 田 隼			2	後 期	選 択	幼	保	社
						◎		
授業概要		運動遊びの実践を通し、運動することの楽しさや運動の特性を踏まえた指導・援助方法など実践を通して学ぶ。						
到達目標		本科目は、幼稚園教諭・保育士として必要な運動あそびのレパートリーを増やし、運動の特性を踏まえた指導・援助方法など実践を通して、実践力を身につけることを目的とする。						
授業の方法		主に実技形式で行う。運動遊びに合わせグループを編成し演習を行うと共に、運動遊びを実際に行う。						
予習・復習等 及び必要時間(分)		創作ダンスの振り作成・練習などの時間が相当時間必要である。						
履修条件		特にありません。						
授 業 計 画								
1	ガイダンス		9	リズムあそび② 応用				
2	自分たちが遊んできたあそび		10	ダンス 幼児向けの創作ダンス①				
3	用具を使わないあそび（じゃんけん）		11	ダンス 幼児向けの創作ダンス②				
4	用具を使わないあそび（力くらべ）		12	ダンス 幼児向けの創作ダンス③				
5	用具を使わないあそび（伝承あそび）		13	ダンス 幼児向けの創作ダンス④				
6	器具を使つての運動遊び①		14	ダンス 幼児向けの創作ダンス⑤				
7	器具を使つての運動あそび②		15	ダンス 発表⑥				
8	リズムあそび① 基礎							
教科書・参考文献		保育と幼児期の運動遊び 萌文書林 幼児期における運動発達と運動遊びの指導 ミネルヴァ書房						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法		単元ごとのレポートの内容についてフィードバックを行う。また、単元ごとの講義の要点を再確認し理解を深める。						
卒業認定・学位授与の方針との関連		当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準		レポート（40％）、実技（60％）を基に、総合的に評価を行い、60 点以上で合格とする。						
実務経験と担当科目内容との関連								

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
児童文化 I		専門教育 科 目	講 義	2	S102		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
毛 利 悦 子		2	前 期	必 修	幼	保	社
						◎	
授業概要	社会の変化により、子どもの文化的な生活が変わることの理解を深め、子どもたちの心豊かに育むための生活の在り方を探求する。						
到達目標	子どもの心を豊かに育くむためにどのような生活を営んでいくか持論を確立する。						
授業の方法	資料、ビデオ等を用い講義形式で行う。また伝承遊びとこどもの生活では実技を行う。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	小論文作成に当たっては、講義内容の復習、テーマに応じた資料収集や研究まとめに相当数時間がかかる。						
履修条件	特にありません。						
授 業 計 画							
1	ガイダンス 子どもたちに伝えていきたいこと①	9	現代社会における子どもの生活②				
2	成育歴と子どもの生活	10	子どもたちに伝えていきたいこと②				
3	伝承文化と子どもの生活①	11	子どもたちに伝えていきたいこと③				
4	伝承文化と子どもの生活②	12	子どもたちに伝えていきたいこと④				
5	時代背景と子どもの生活①	13	子どもたちに伝えていきたいこと⑤				
6	時代背景と子どもの生活②	14	子どもたちに伝えていきたいこと⑥				
7	時代背景と子どもの生活③	15	子どもたちに伝えていきたいこと⑦ まとめ				
8	現代社会における子どもの生活①						
教科書・参考文献	「遊びの指導」財団法人幼年研究所 同文書院						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	小論文についてはテーマ設定、関連資料の紹介、内容等を個別に助言・指導を行う。実技についても個別に助言を行う。						
卒業認定・学位授 与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」「2」に該当する科目である。						
成績評価の方法及 び基準	小論文(70%) 実技(30%)						
実務経験と担当科 目内容との関連	前職(幼稚園教諭・教頭・園長)時の論文・研究発表資料等を資料及び教材として使用する。 又、経験で得た事例や内容を伝える。						

科 目 名			分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
子ども家庭支援の心理学			専門教育 科 目	講 義	2	S202		
担当教員氏名			年 次	開講期	卒業要件	資 格		
乳 井 英 雄			2	前 期	選 択	幼	保	社
						◎		
授業概要	①成長期と発達 ②子どもの心に関する諸問題 ③家族と家庭の意義 ④家庭に関する諸問題 ⑤子ども家庭支援の様々な実際							
到達目標	子どもと家庭の抱える課題や諸問題を理解できるようになる。また、支援の在り方について様々な実践等を基に、家族の心理を含めて理解できるようになる。							
授業の方法	補助教材を利用して、講義形式と演習形式を織り交ぜる。							
予習・復習等 及び必要時間(分)	指定文献を一読すること(30分)。講義内容を振り返り疑問点を考える(30分)。							
履修条件	特にありません							
授 業 計 画								
1	ガイダンス	9	子育て家庭の現状と課題					
2	成長期と発達Ⅰ	10	子どもの生育環境とその影響					
3	成長期と発達Ⅱ	11	多様な家庭に対する理解と援助					
4	生涯発達の理解	12	子ども家庭支援の実際Ⅰ					
5	子どもの心の健康に関する問題	13	子ども家庭支援の実際Ⅱ					
6	家庭と家族の意義と機能Ⅰ	14	子ども家庭支援の実際Ⅲ					
7	家庭と家族の意義と機能Ⅱ	15	グループディスカッションとまとめ					
8	保育者の成長と支援							
教科書・参考文献	保育所保育指針 「保育実践に求められる子ども家庭支援」 橋本好市							
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	レポートは授業内で返却して解説、テストは採点后に個別返却にて不足点を補う。							
卒業認定・学位授 与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。							
成績評価の方法及 び基準	定期試験にて60点以上の学生に単位を認定する。なお、再々試験までの実施とする。							
実務経験と担当科 目内容との関連								

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
子ども家庭支援論		専門教育 科 目	講 義	2	S205		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
小 山 貴 博		2	後 期	選 択	幼	保	社
						◎	
授業概要	子どもを取り巻く家庭の実態と、望ましい家庭を中心とした子育て支援の方途を学ぶ。						
到達目標	本講義では、家庭の意義や機能を理解し、併せて子育て家庭を取り巻く状況等を理解する。また、子育て家庭を支援するための体制と多様な子育て家庭のニーズに応じた支援の展開を理解する。						
授業の方法	教科書の内容に沿ったたかたちで、講義形式で行う。筆記試験の受験が単位認定の必須条件となる。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	各回の受講後には、講義内容を復習し、必要に応じて、各種統計資料や関連法の原文等を参照すること。						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	子育て家庭支援の実際①				
2	家庭の意義・機能と子育て家庭支援の必要性	10	子育て家庭支援の実際②				
3	保育者による子育て家庭支援	11	特別なニーズを持つ家庭への支援①				
4	子育て家庭を取り巻く状況①	12	特別なニーズを持つ家庭への支援②				
5	子育て家庭を取り巻く状況②	13	特別なニーズを持つ家庭への支援③				
6	子育て家庭を支援する制度	14	講義内容の振り返り①				
7	子育て家庭を支援する政策の動向	15	講義内容の振り返り②				
8	子育て家庭支援の基礎						
教科書・参考文献	『コンパクト版 保育者養成シリーズ＜新版＞相談援助』（一藝社）						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	試験終了後、フィードバックを行う。						
卒業認定・学位授 与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位の授与の方針の「3」に該当する科目である。						
成績評価の方法及 び基準	筆記試験を実施する。なお、60 点以上で合格とする。						
実務経験と担当科 目内容との関連							

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
保育原理 II		専門教育 科 目	講 義	2	S105		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
藤 村 敦		2	後 期	選 択	幼	保	社
						◎	
授業概要	保育所保育指針における保育の基本、保育の目標と方法に焦点をあて、その内容について理解を深めるとともに、その実際について学びを深める。 保育所保育指針の内容と他の授業の内容との関連について学ぶ。						
到達目標	保育原理の中でも、主に保育所保育指針における保育の基本、保育の目標と方法に焦点をあて、子ども理解と保育内容の具体等について理解を深める。						
授業の方法	主に講義形式で行い、教科書（保育所保育指針）を用いて、保育の基本、目標と方法等を理解する学習や、保育の基本と他の授業での学習内容とを関連付ける学習を行う。発達や保育内容についての理解度を確認するために、小テストを2回行うとともに、各講義において学習した内容を実際の保育場面に当てはめて考えるための演習課題を行う。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	授業で扱うテーマについて、事前に教科書を読んでおいてください（30分程度）。授業後に配布プリント、教科書を基に、授業内容を振り返り、学んだことについて、実際の保育場面に当てはめて説明することができるよう復習してください（30分程度）。						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	オリエンテーション、保育の意義	9	乳幼児理解と保育の計画②				
2	乳幼児の遊びと指導①	10	健康及び安全に関する指導①、小テスト1回目				
3	乳幼児の遊びと指導②	11	健康及び安全に関する指導②				
4	乳幼児の遊びと指導③	12	保護者に対する支援、小テスト2回目				
5	乳幼児期の発達と保育内容①	13	保育の現状と課題①				
6	乳幼児期の発達と保育内容②	14	保育の現状と課題②				
7	乳幼児期の発達と保育内容③	15	講義内容の振り返り				
8	乳幼児理解と保育の計画①						
教科書・参考文献	保育所保育指針解説（フレーベル館）厚生労働省編						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	授業内演習課題については、次の講義の冒頭で具体的な解答例を示し、振り返りを行うとともに、それについて解説を行う。						
卒業認定・学位授 与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。						
成績評価の方法及 び基準	授業内演習課題（70%）、授業内小テスト（30%）を基にして、総合的に評価を行い、60点以上で合格とする。						
実務経験と担当科 目内容との関連	義務教育学校での指導経験のある教員が、具体的な事例を基にして授業を行う。						

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
社会的養護Ⅱ		専門教育 科 目	演 習	1	S107		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
藤 村 敦		2	前 期	選 択	幼	保	社
					◎		
授業概要	プリントを用いて社会的養護の実際について理解を深め、個々の児童・保護者の実態を把握するための多面的な視点について学ぶ。 得られた多面的な視点を基にして、具体的な支援を考える演習を行う。						
到達目標	社会的養護の実際について理解を深めるとともに、個々の児童・保護者の実態を把握するための多面的な視点を得ることができる。さらに、事例について、多面的な視点で適切な実態把握を行い、それを基にして、具体的な支援計画を作成することができる。						
授業の方法	主に講義形式で行い、プリントを用い、様々な事例を基にして社会的養護の実際を理解する学習を行う。また、各講義では、事例に登場する児童・保護者に対しての具体的な対応について考える演習も行う。授業の最後にはグループワークを行い、具体的な支援計画を作成する演習も行う。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	授業後に配布プリントや参考文献を基に、授業内容を振り返り、社会的養護の実際について理解を深めるとともに、学んだ視点を事例に当てはめて考えることができるよう復習してください(30分程度)。						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	オリエンテーション（社会的養護の対象者）	9	社会的養護の内容②（治療的支援）				
2	施設養護の実際①（乳児院を中心に）	10	社会的養護雄内容③（自立支援）				
3	施設養護の実際②（児童養護施設を中心に）	11	支援計画の評価と改善、ジェノグラム				
4	施設養護の実際③（障がい児入所施設を中心に）	12	社会的養護等の課題				
5	社会的養護における倫理及び責務	13	社会的養護にかかわる専門技術①				
6	家庭養護の実際	14	社会的養護にかかわる専門技術②				
7	アセスメントと支援計画の作成（概要の理解）	15	社会的養護にかかわる専門技術③				
8	社会的養護の内容①（日常生活支援）						
教科書・参考文献	適宜資料を配布する。参考文献：社会的養護Ⅱ（中央法規）相澤仁・村井美紀・大竹智編						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	授業内演習課題については、次の講義の冒頭で具体的な解答例を示し、振り返りを行うとともに、それについて解説を行う。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	授業内演習課題（50%）、グループワークを基に作成するレポート（50%）を基にして、総合的に評価を行い、60点以上で合格とする。						
実務経験と担当科目内容との関連	義務教育学校での指導経験のある教員が、具体的な事例を基にして授業を行う。						

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
保育実習指導Ⅱ		専門教育 科 目	演 習	1	S402		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
藤 村 敦		2	前 期	選 択	幼	保	社
					◎		
授業概要	教科書やプリントを用いて、保育実習Ⅱの目的や具体的内容、方法を学ぶ。 実習に必要な多様な視点や、実習内容と他の授業内容との関連について学ぶ。						
到達目標	保育実習Ⅱの目的が分かり、その具体的内容や方法を理解する。また、これまでの様々な授業で学んだことを生かし、子どもの実態に則した指導案を具体的に作成することができる。						
授業の方法	主に講義形式で行い、教科書（保育指針解説等）、プリントを用いながら、保育への理解を深める学習を行う。授業の途中にはグループワークを行い、具体的な指導案を作成する演習等を行う。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	授業後に配布プリント、教科書（保育指針解説等）を基に、授業内容を振り返り、学んだ内容について、実施の保育実習に当てはめて考えることができるよう復習してください（1時間程度）。						
履修条件	保育実習指導Ⅰ（保育所）を履修済。						
授 業 計 画							
1	オリエンテーション、保育実習Ⅱの位置付け	9	指導計画の作成①				
2	実習の目的と実際	10	指導計画の作成②				
3	保育所の役割と機能①	11	事例を基にしたグループワーク①				
4	保育所の役割と機能②	12	事例を基にしたグループワーク②				
5	実習Ⅱの総合的な学び①（家庭支援を中心に）	13	保育士の業務と職業倫理				
6	実習Ⅱの総合的な学び②（地域連携を中心に）	14	自己課題の明確化と実習日誌				
7	保育の全体計画に基づく具体的計画と実践	15	評価とまとめ				
8	保育の観察と記録						
教科書・参考文献	保育実習（中央法規）近喰晴子・寅屋壽廣・松田純子編、保育所保育指針解説（フレーベル館）厚生労働省編、参考文献：幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（フレーベル館）内閣府・文部科学省・厚生労働省編						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	授業内演習課題については、次の講義の冒頭で具体的な解答例を示し、振り返りを行うとともに、それについて解説を行う。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	授業内演習課題（50%）、レポート（50%）を基にして、総合的に評価を行い、60点以上で合格とする。保育実習Ⅱと連携させており、保育実習Ⅱが不可の場合は単位が認定されない。						
実務経験と担当科目内容との関連	特別支援学校での指導経験のある教員が、具体的な事例を基にして授業を行う。						

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
保育実習指導 Ⅲ		専門教育 科 目	演 習	1	S403		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
阿 部 千 春		2	前 期	選 択	幼	保	社
						◎	
授業概要	保育実習Ⅰにおける社会福祉施設での現場実習を踏まえ、より実践的で総合的な視点からの施設機能や役割・対象児(者)への理解を深めるとともに、社会的拡がりのなかでの社会福祉施設の存在についての理解を深められるようにします。						
到達目標	児童福祉施設等の機能と保育士の職務について具体的に理解できることを目的とします。						
授業の方法	講義資料を用いて、講義形式で行います。演習としてグループワークやグループディスカッションを取り入れます。提出課題は単位認定の必須条件となります。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	事前学習として、自分が行く実習施設について調べておき、必要な知識を身につけておきます。						
履修条件	保育実習指導Ⅰ（施設）を履修済。						
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	障害児(者)関係施設の役割と機能③				
2	保育実習Ⅲの目的と内容	10	チーム支援				
3	社会的養護施設の役割と機能①	11	施設で行う家族療法とペアレント・トレーニング				
4	社会的養護施設の役割と機能②	12	援助者のメンタルヘルス				
5	社会的養護施設の役割と機能③	13	リービングケアと自立支援①				
6	社会的養護施設の役割と機能④	14	リービングケアと自立支援②				
7	障害児(者)関係施設の役割と機能①	15	職場内研修				
8	障害児(者)関係施設の役割と機能②	16	評価とまとめ				
教科書・参考文献	教科書：守巧他著「施設実習パーフェクトガイド」わかば社、全国保育士養成協議会北海道ブロック協議会編「保育実習ガイドライン（福祉施設実習編）」、参考文献：駒井美智子他著「施設実習ガイド」萌文書林						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	提出した課題について、所見をつけて返却します。						
卒業認定・学位授 与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目です。						
成績評価の方法及 び基準	成績評価は、提出されたレポート等の課題（70%）、授業後に提出する感想カード（30%）によって総合的に評価し、単位を認定します。						
実務経験と担当科 目内容との関連							

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
保育実習Ⅰ（保育所）		専門教育 科 目	実 習	※	S404		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
藤村 敦・池田 隼		1・2	集 中	選 択	幼	保	社
						◎	
授業概要	保育実習指導Ⅰ及びこれまで学んだ知識・技術を基礎として保育所での活動に参加し、乳幼児に対する理解や保育所の役割、保育士の職務等について学ぶ。						
到達目標	これまでの大学での学びを生かして、積極的に保育所での活動に参加し、乳幼児の発達や保育内容、保育環境、保育士の職務等について実践的に理解する。						
授業の方法	保育所にて10日間以上と社会福祉施設にて10日間以上、合計20日間以上の必修実習となります。実習日誌等の提出は単位認定の必須条件となります。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	保育実習指導Ⅰを受講し、実習に必要な知識をつけておくとともに、保育実習指導Ⅰで指定された準備を行っておくこと。						
履修条件	実習前に開講されている学則必修科目、および保育士資格取得科目に関して未修得がある場合、または修得の見込みが立たない場合、保育実習を履修できない場合がある。						
授 業 計 画							
1	保育所保育実習	9	保育所保育実習				
2	保育所保育実習	10	保育所保育実習				
3	保育所保育実習	11	保育所保育実習				
4	保育所保育実習	12	保育所保育実習				
5	保育所保育実習	13	保育所保育実習				
6	保育所保育実習	14	保育所保育実習				
7	保育所保育実習	15	保育所保育実習				
8	保育所保育実習						
教科書・参考文献	保育実習（中央法規）近喰晴子・寅屋壽廣・松田純子編、保育所保育指針解説（フレーベル館）厚生労働省編						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	面談を行い、これまでの実習や日誌の記述内容についての振り返りを行うとともに、今後の課題に関する共通理解を行う。						
卒業認定・学位授 与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「3」に該当する科目である。						
成績評価の方法及 び基準	保育所からの評価（70%）、実習日誌（30%）を基にして、総合的に評価を行い、60点以上で合格とする。 ※単位は保育実習Ⅰ（施設）と合わせて4単位とする。						
実務経験と担当科 目内容との関連							

科 目 名			分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
保育実習Ⅰ（施設）			専門教育 科 目	実 習	※	S404		
担当教員氏名			年 次	開講期	卒業要件	資 格		
阿部 千春・小山 貴博			1・2	集 中	選 択	幼	保	社
							◎	
授業概要	保育実習Ⅰにおける社会福祉施設での現場実習を踏まえ、より実践的で総合的視点からの施設機能や役割、対象児（者）への理解を深めます。							
到達目標	社会福祉施設での実習を通して、保育士として必要な知識・技術を習得することを目的とします。							
授業の方法	保育所にて10日間と社会福祉施設にて10日間、合計20日間の必修実習となります。実習日誌とレポートの提出は単位認定の必須条件となります。							
予習・復習等 及び必要時間(分)	事前学習として、自分が行く実習施設について調べておき、必要な知識をつけておきます。							
履修条件	実習前に開講されている学則必修科目、および保育士資格取得科目に関して未修得がある場合、または修得の見込みが立たない場合、保育実習を履修できない場合があります。							
授 業 計 画								
1	福祉施設実習	9	福祉施設実習					
2	福祉施設実習	10	福祉施設実習					
3	福祉施設実習	11	福祉施設実習					
4	福祉施設実習	12	福祉施設実習					
5	福祉施設実習	13	福祉施設実習					
6	福祉施設実習	14	福祉施設実習					
7	福祉施設実習	15	福祉施設実習					
8	福祉施設実習							
教科書・参考文献	教科書：守巧他著「施設実習パーフェクトガイド」わかば社、全国保育士養成協議会北海道ブロック協議会編「保育実習ガイドライン（福祉施設実習編）」、参考文献：駒井美智子他著「施設実習ガイド」萌文書林							
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	実習施設からの評価表と実習日誌、レポート、自己評価表を用い、事後指導のための面談を行います。							
卒業認定・学位授 与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「3」に該当する科目です。							
成績評価の方法及 び基準	成績評価は、実習施設からの評価（50%）、実習日誌（30%）、レポート（20%）を基に総合的に評価して、単位を認定します。 ※単位は保育実習Ⅰ（保育所）と合わせて4単位とする。							
実務経験と担当科 目内容との関連								

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
保育実習Ⅱ（保育所）		専門教育 科 目	実 習	2	S405		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
藤村 敦・ 池田 隼		2	集 中	選 択	幼	保	社
					◎		
授業概要	保育実習Ⅰで学んだ知識・技術を基礎として保育所での活動に幅広く参加し、保育所の役割や保育士の職務等について、より実践的で総合的な理解を深める。						
到達目標	保育所での活動に参加し、乳幼児の発達や保育内容、保育環境、保育士の職務等についてより実践的・総合的に理解することができる。また、自らの指導計画を作成したり、地域社会との連携等、幅広い視点で保育所の活動を理解したりすることができる。						
授業の方法	保育所にて 10 日間以上と社会福祉施設にて 10 日間以上、合計 20 日間以上の必修実習となります。実習日誌の提出は単位認定の必須条件となります。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	保育実習指導Ⅱを受講し、実習に必要な知識をつけておくとともに、保育実習指導Ⅱで指定された準備を行っておくこと。						
履修条件	実習前に開講されている学則必修科目、および保育士資格取得科目に関して未修得がある場合、または修得の見込みが立たない場合、保育実習を履修できない場合がある。						
授 業 計 画							
1	保育所保育実習	9	保育所保育実習				
2	保育所保育実習	10	保育所保育実習				
3	保育所保育実習	11	保育所保育実習				
4	保育所保育実習	12	保育所保育実習				
5	保育所保育実習	13	保育所保育実習				
6	保育所保育実習	14	保育所保育実習				
7	保育所保育実習	15	保育所保育実習				
8	保育所保育実習						
教科書・参考文献	保育実習（中央法規）近喰晴子・寅屋壽廣・松田純子編、保育所保育指針解説（フレーベル館）厚生労働省編						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	実習後の保育実習指導Ⅱの授業内において、実習内容についての振り返りを行い、今後の課題を見出す学習を行う。						
卒業認定・学位授 与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「3」に該当する科目である。						
成績評価の方法及 び基準	保育所からの評価（70%）、実習日誌及び指導案（30%）を基にして、総合的に評価を行い、60 点以上で合格とする。						
実務経験と担当科 目内容との関連							

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
保育実習Ⅲ（施設）		専門教育 科 目	実 習	2	S406		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
阿部 千春 ・ 小山 貴博		2	集 中	選 択	幼	保	社
					◎		
授業概要	保育実習Ⅰにおける社会福祉施設での現場実習を踏まえ、より実践的で総合的視点からの施設機能や役割、対象児（者）への理解を深めます。						
到達目標	社会福祉施設での実習を通して、保育士として必要な知識・技術を習得することを目的とします。						
授業の方法	社会福祉施設にて10日間の選択必修実習となります。実習日誌とレポートの提出は単位認定の必須条件となります。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	事前学習として、自分が行く実習施設について調べておき、必要な知識をつけておきます。						
履修条件	実習前に開講されている学則必修科目、および保育士資格取得科目に関して未修得がある場合、または修得の見込みが立たない場合、保育実習を履修できない場合があります。						
授 業 計 画							
1	福祉施設実習	9	福祉施設実習				
2	福祉施設実習	10	福祉施設実習				
3	福祉施設実習	11	福祉施設実習				
4	福祉施設実習	12	福祉施設実習				
5	福祉施設実習	13	福祉施設実習				
6	福祉施設実習	14	福祉施設実習				
7	福祉施設実習	15	福祉施設実習				
8	福祉施設実習						
教科書・参考文献	教科書：守巧他著「施設実習パーフェクトガイド」わかば社、全国保育士養成協議会北海道ブロック協議会編「保育実習ガイドライン（福祉施設実習編）」、参考文献：駒井美智子他著「施設実習ガイド」萌文書林						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	実習施設からの評価表と実習日誌、レポート、自己評価表を用い、事後指導のための面談を行います。						
卒業認定・学位授 与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「3」に該当する科目です。						
成績評価の方法及 び基準	成績評価は、実習施設からの評価（50%）、実習日誌（30%）、レポート（20%）を基に総合的に評価して、単位を認定します。						
実務経験と担当科 目内容との関連							

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
子どもの保健		専門教育 科 目	講 義	2	S206		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
山 田 陽 子		2	前 期	必 修	幼	保	社
						◎	
授業概要	子どもは自ら育つ力があるが、未成熟な子どもを援助して成熟へ向かわせる支援が必要である。子供の成長・発達は一様ではないが、正常や標準を理解する。身体と精神の発達に関わる保育者としての役割を学ぶ。						
到達目標	子どもの誕生から幼児期までの心身の成長過程を理解する。						
授業の方法	講義中心であるが、グループ演習を組み合わせで行う。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	授業の予定と終了後に教本の復習60分程度必要						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	オリエンテーションとシラバスの説明	9	子どもの生理機能の発達 ②				
2	子どもの誕生までの過程と母子保健の重要性	10	子どもの運動機能の発達				
3	健康に関する母子保健統計	11	子どもの精神機能の発達				
4	出産と新生児の発育とリスク	12	保育の環境整備と環境衛生				
5	子どもの身体発育① 母子手帳	13	母子保健政策				
6	子どもの身体発育②	14	子どもの成長に関わる地域と施設				
7	子どもの身体発育③ 発育評価	15	全体を通してのまとめ				
8	子どもの生理機能の発達 ①						
教科書・参考文献	保育・教育ネオシリーズ21 子どもの保健 同文書院						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	課題レポートの提出と小テストを行う。						
卒業認定・学位授 与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。						
成績評価の方法及 び基準	課題レポート提出と筆記試験の合計点が60点以上で合格						
実務経験と担当科 目内容との関連	看護師としての実務経験と看護学校の教員として経験がある。広く保健について精通している教員が授業を行う。						

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
子どもの健康と安全		専門教育 科 目	演 習	1	S208		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
山 田 陽 子		2	後 期	必 修	幼	保	社
					◎		
授業概要	子どもの保健で基礎を学び、更に疾病や事故などへ発展させて学んでいく。 保育士に求められる役割は多岐にわたり、様々な事故・事例から一連を学ぶ。						
到達目標	子どもの疾病や事故などに対応することが求められる。時事問題を取り上げて、実際への対応を 応用できる知識・演習を身に着け職業へとつなげる。						
授業の方法	講義と演習を組み合わせで行う						
予習・復習等 及び必要時間(分)	授業の予定と終了後に教本の復習 6 0 分程度必要						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	オリエンテーションとシラバスの説明	9	感染症と予防接種				
2	子どもの健康と安全の意義	10	子どもの事故と対応				
3	子どもの健康状態と観察	11	事故の事例から学ぶ				
4	子どもに多い病気と症状の対処①	12	救急法の実際				
5	子どもに多い病気と症状の対処②	13	災害と保育士の役割				
6	衛生管理と感染症	14	地域と保育園と保育士の役割				
7	子どもに多い感染症①	15	全体を通してのまとめ				
8	子どもに多い感染症②						
教科書・参考文献	子どもの保健 ―理論と実際―						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	演習レポートを提出し、グループワークで討論する。学生間で共有する。						
卒業認定・学位授 与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。						
成績評価の方法及 び基準	課題レポート提出と筆記試験の合計点が 60 点以上で合格						
実務経験と担当科 目内容との関連	看護師としての実務経験と看護学校教員としての経験がある。広く保健について精通している教員 が授業を行う。						

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
特別支援教育「基礎」		専門教育 科 目	演 習	2	S108		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
藤 村 敦		2	前 期	選 択	幼 ◎	保 ◎	社 ◎
授業概要	プリントを用いて様々な障がいの診断基準や特徴、及びそれに対応する支援の実際について学ぶ。様々な事例等を基に、子どもや保護者への具体的な支援方法について考える演習を行う。						
到達目標	様々な障がいとそれに対応する支援の実際について理解を深めるとともに、様々な事例等を基に、子どもや保護者への具体的な支援について考え、具体的な支援計画を考えることができる。						
授業の方法	主に講義形式で行い、プリントを用いて様々な障がいやその支援の実際を理解する学習を行う。また、各講義では、事例などを基にして障がいのある子どもへの具体的な対応について考える演習も行う。様々な障がいの具体についての理解の程度を確認するために小テストを2回行う。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	授業で扱う各障がい等について、予め参考文献やインターネットで調べ、概要を理解しておいてください(30分程度)。授業後に配布プリントや参考文献を基に、授業内容を振り返り、学んだ各障がいの具体とその対応について理解をさらに深めるとともに、学んだ支援方法を事例に当てはめて考えることができるよう復習してください(30分程度)。						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	オリエンテーション(障がいとは)	9	個々の発達を促す支援の在り方②(自立活動を中心に)				
2	知的障がい児の理解と援助	10	個別の指導計画の作成①				
3	発達障がい児(自閉スペクトラム症)の理解と援助	11	個別の指導計画の作成②				
4	発達障がい児(AD/HD, LD)の理解と援助	12	クラス及び園全体での指導の枠組み、小テスト1回目				
5	障がいはないが、特別の教育的ニーズのある子どもの理解と援助	13	保護者・家庭への支援				
6	視覚障がい・聴覚障がい児の理解と援助	14	家庭及び関連機関との連携、小テスト2回目				
7	肢体不自由・病虚弱児の理解と援助	15	障がい児保育の歴史と現状・課題				
8	個々の発達を促す支援の在り方①(応用行動分析)						
教科書・参考文献	適宜資料を配布する。参考文献：障害児保育(中央法規)西村重稀・水田敏朗編						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	授業内演習課題、小テストについては、次の講義の冒頭で具体的な解答例を示し、振り返りを行うとともに、それについて解説を行う。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の学位授与の方針「1」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	授業内演習課題(60%)、授業内小テスト(40%)を基にして、総合的に評価を行い、60点以上で合格とする。						
実務経験と担当科目内容との関連	特別支援学校での指導経験のある教員が、具体的な事例を基にして授業を行う。						

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
教育カウンセリング		専門教育 科 目	講 義	2	S109		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
阿 部 千 春		2	前 期	選 択	幼	保	社
				◎			
授業概要	さまざまな対人援助場面でのコミュニケーションのあり方や援助のしかた、個と集団を捉える意義と方法について教科書や体験を通して学びます。						
到達目標	教育カウンセリングに関する基礎的な知識を習得することをめざします。						
授業の方法	教科書と講義資料を用いて講義形式で行い、グループアプローチについては演習を行います。授業内で行う試験を受験することが単位認定の必須条件となります。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	授業後は、教科書や講義資料、関連する書籍を読むなどして、復習してください。(30分程度)						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	不登校の理解と対応				
2	教育カウンセリング概論	10	いじめの理解と対応				
3	発達の理論	11	問題行動の理解と対応				
4	構成的グループエンカウンター の原理	12	学級経営				
5	構成的グループエンカウンター の実際	13	保護者対応				
6	アサーション・トレーニングの考え方と実際①	14	教師のメンタルヘルス				
7	アサーション・トレーニングの考え方と実際②	15	講義総括				
8	キャリアガイダンス						
教科書・参考文献	教科書：NP0 日本教育カウンセラー協会編「新版 教育カウンセラー標準テキスト 初級編」図書文化、参考文献： NP0 日本教育カウンセラー協会編「新版 教育カウンセラー標準テキスト 中級編」図書文化						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	テスト解説を行うことで、誤答問題の見直しができるようにします。また、具体的な学習方法について提示します。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目です。						
成績評価の方法及び基準	成績評価は、授業内試験（80%）、授業後に提出する感想カード（20%）によって総合的に評価し、単位を認定します。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科 目 名			分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
保育者・教師論			専門教育 科 目	講 義	2	S111		
担当教員氏名			年 次	開講期	卒業要件	資 格		
毛 利 悦 子			2	後 期	選 択	幼 ◎	保 ◎	社 ◎
授業概要		幼児教育における保育者及び教師の役割を、事例をもとに探求する。						
到達目標		保育者・教師としての使命感、社会的責任感、を自覚し目指す保育者・教師像を小論文にまとめる。						
授業の方法		担当教員作成資料、ビデオ等補助教材を用いて講義・演習方式で行う。						
予習・復習等 及び必要時間(分)		小論文作成のため資料収集、研究に相当の時間が必要。						
履修条件		特にありません。						
授 業 計 画								
1	ガイダンス 日本の幼児教育を築いてきた先人たち	9	保護者や家庭とともに歩む保育者、教師 ③説明責任と情報公開					
2	法の規定と社会の要請における保育者の役割	10	保護者や家庭とともに歩む保育者、教師 ④地域社会との人的交流や連携の意義					
3	乳幼児の求める保育者・教師 ① 思いや育ちを読みとる目	11	保護者や家庭とともに歩む保育者、教師 ⑤園内外の連携と方法					
4	乳幼児の求める保育者 ② カウンセリングマインドをもった援助	12	チーム園運営のへの対応の理解 ① 組織としての園運営の理解					
5	乳幼児の求める保育者・教師 ③ 行動の理解と記録の構築	13	チーム園運営への対応の理解 ② 子育てを支援するための組織的連携の理解					
6	乳幼児の求める保育者・教師 ④ 保育者、教師研修	14	グループ協議 目指す保育者・教師像					
7	保護者や家庭とともに歩む保育者・教師 ①理解	15	グループ協議 保育者・教師の使命と社会的責任					
8	保護やう家庭とともに歩む保育者・教師 ②援助							
教科書・参考文献		「保育現場のリスクマネジメント」 監修 社会福祉法人 日本保育協会						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法		小論文については、テーマ設定、関連資料の紹介、助言などを個別に行う。						
卒業認定・学位授 与の方針との関連		当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」「3」に該当する科目である。						
成績評価の方法及 び基準		小論文(100%)						
実務経験と担当科 目内容との関連		前職(幼稚園教諭・教頭・園長)時の論文・研究発表資料等を資料及び教材として使用する。 又、経験で得た事例や内容を伝える。						

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
教育財政学		専門教育 科 目	講 義	1	S114		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
乳 井 英 雄		2	前 期	選 択	幼 ◎	保	社
授業概要	①公教育の理念と教育財政 ②学校運営と教育財政 ③地域と学校の連携 ④教育制度改革 ⑤危機管理と学校安全						
到達目標	財政制度や教育財政の仕組みを理解できるようになる。また、学校安全や安全管理の基本的な考 え方を理解できるようになる。						
授業の方法	補助教材を利用して、講義形式と演習形式を織り交ぜる。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	文献を一読すること(30分)。講義内容を振り返り疑問点を考える(30分)。						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	公教育の理念(オリエンテーション含む)	9	学校の役割と地域社会				
2	教育制度の基本	10	地域連携と学校				
3	財政の意味と理念	11	家庭経済と教育財政の関わり				
4	教育財政の仕組み	12	税制と教育制度				
5	現代社会における教育制度の諸問題	13	教育制度の海外比較				
6	教育制度改革とは	14	危機管理と安全教育				
7	学校経営の仕組み	15	教育現場における安全				
8	学校運営の評価と改善						
教科書・参考文献	「学校経営」 小島弘道						
課題(レポート・テ ストを含む)に対する フィードバックの方法	レポートは授業内で返却して解説、テストは採点後に個別返却にて不足点を補う。						
卒業認定・学位授 与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。						
成績評価の方法及 び基準	期試験にて60点以上の学生に単位を認定する。なお、再々試験までの実施とする。						
実務経験と担当科 目内容との関連							

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
保育内容研究Ⅰ（人間関係）		専門教育 科 目	演 習	2	S310		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
乳 井 英 雄		2	後 期	必 修	幼	保	社
					◎	◎	
授業概要	①領域「人間関係」とは ②教育要領と領域「人間関係」 ③他者との関わりと発達 ④共同作業・ディスカッション						
到達目標	領域「人間関係」のねらいや内容が理解できる。また、協同性や他者との関係性からの発達を理解して実践できる。さらに、現代社会と人間関係の諸問題を探求できる。						
授業の方法	補助教材を利用して、講義形式と演習形式を織り交ぜる。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	指定文献を一読すること（30分）。講義内容を振り返り疑問点を考える（30分）。						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	人間関係とは(オリエンテーション含む)	9	地域社会と幼少接続				
2	幼稚園教育要領の領域「人間関係」を理解する	10	幼稚園生活における人間関係の実際				
3	発達と集団教育の展開	11	現代社会と人間関係				
4	他者と係わる力の発達Ⅰ	12	人間関係における課題の発見と整理				
5	他者と係わる力の発達Ⅱ	13	領域「人間関係」の指導に向けてⅠ				
6	集団遊びと個人遊びⅠ	14	領域「人間関係」の指導に向けてⅡ				
7	集団遊びと個人遊びⅡ	15	全体ディスカッションとまとめ				
8	集団行動と人間関係						
教科書・参考文献	幼稚園教育要領 「保育内容人間関係」 榎沢良彦						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	レポートは授業内で返却して解説、テストは採点后に個別返却にて不足点を補う。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	定期試験にて60点以上の学生に単位を認定する。なお、再々試験までの実施とする。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
保育内容研究Ⅳ（健康）		専門教育 科 目	演 習	2	S313		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
池 田 隼		2	前 期	必 修	幼	保	社
					◎	◎	
授業概要	幼稚園教育要領・保育所保育指針等に示された「健康」の領域について理解を深め、幼児期の発育発達と運動の役割について学ぶ。また、それらを踏まえ具体的な場面を想定して指導案を作成し、保育を構想する視点を学ぶ。						
到達目標	幼稚園教育要領・保育所保育指針等に示された「健康」の領域の視点から基本的知識を深め、幼児を取り巻く環境の変化がこころとからだに及ぼす影響について理解する。また、具体的な場面を想定して保育を構想する視点を養うことを目的とする。						
授業の方法	主に講義形式で行う。また、プリントをもとに進め、講義内容に沿ったレポートを提出し理解度を確認する。さらに、授業後半では、知識をもとに指導案の作成・模擬授業を行う。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	配布プリントを読み込み、授業内容を理解すること。(20 分程度) 指導案の作成・実践準備を行うこと。(3 時間程度)						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	あそび①				
2	幼稚園教育要領の変遷	10	あそび②				
3	「健康」①	11	安全管理と安全教育の必要性				
4	「健康」②	12	保育計画と指導案				
5	子どものこころの発達と運動遊び	13	保育計画と指導案の作成				
6	子どものからだの発達と運動遊び	14	保育・幼児教育における評価				
7	子どもを取り巻く環境と健康	15	事例を通して学ぶ（グループワークと発表）				
8	基本的生活習慣						
教科書・参考文献	保育内容「健康」（ミネルヴァ書房）、幼児のからだと心を育てる運動遊び（杏林書院） 幼稚園教育要領、保育所保育指針						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	単元ごとのレポートの内容についてフィードバックを行う。また、単元ごとの講義の要点を再確認し理解を深める。						
卒業認定・学位授 与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目である。						
成績評価の方法及 び基準	指導案作成（80%）、レポート（20%）を基にして、総合的に評価を行い 60 点以上で合格とする。						
実務経験と担当科 目内容との関連							

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
保育内容研究Ⅴ(表現)		専門教育 科 目	演 習	2	S314		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
神 林 眞 里		2	前 期	必 修	幼 ◎	保 ◎	社
授業概要	＜幼稚園教育要領＞＜保育所保育指針＞＜幼保連携型認定こども園教育・保育要領＞に示される当該領域「表現」のねらい及び内容について理解を深めるとともに、自ら表現者として子ども達の心に寄り添い共感できる保育者となるよう、子ども達の発達に即した表現視点からの具体的支援方法を身につける。						
到達目標	○領域「表現」の内容を理解し、子どもの遊びを豊かにするための知識技能を修得する。○乳幼児の表現活動に見られる発達の特徴を理解する。○他者との共感性や協働性を養うよう、グループワークなどで表現活動の計画実践を行い、表現することの楽しさや重要性を実感する。						
授業の方法	教科書や事例を基に、保育者としての自分という観点から、領域表現のねらいや内容を理解し保育構想を考える。また、感性や表現性を豊かに充実させるよう、自ら表現実践を行なう。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	講義の他、レポート課題や筆記試験を行うので、教科書や講義内容の振り返り、配布資料のまとめを行なうこと。(30分程度)						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	ガイダンス、 各要領に示される領域の捉え方	9	保育者自身の表現				
2	領域「表現」の概要、ねらいと内容	10	表現をつくり出す（イメージの実現と共有）				
3	乳幼児の発達	11	表現力を育むための支援と評価（情報機器などの活用）				
4	乳幼児の発達に見られる表現	12	領域表現の小学校教科との関連				
5	遊びの発達と体験における感性の育ち	13	現代社会における表現視点からみる子ども達の課題				
6	子ども達の表現を支える環境	14	表現視点からみる子ども達の課題と社会の先駆的取り組み				
7	素材との出会い（生活、自然）	15	振り返りとまとめ				
8	コミュニケーションとしての表現						
教科書・参考文献	事例で学ぶ保育内容領域表現（萌文書林）、保育の中のアート（小学館） 他						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	領域「表現」のねらい及び内容や、乳幼児の発達段階に見られる表現の特徴、基礎的知識について筆記試験や提出されたレポートから理解と学びを確認。また、保育者として共感・協同的な実技の体験ができたか、振り返りの自己評価を行う。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」「2」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	筆記試験(50%)、レポートや総合表現実践などの課題評価(50%)を総合し評価する。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
保育内容指導Ⅰ（健康）		専門教育 科 目	演 習	2	S315		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
池 田 隼		2	後 期	選 択	幼	保	社
					◎	◎	
授業概要	幼児期における運動遊びの重要性や、指導・支援の在り方、環境設定について理解を深め、指導案作成、模擬授業を行う。また、模擬保育の振り返りを、情報機器及び視聴覚教材を効果的に活用し保育実践の評価方法についての視点を学ぶ。						
到達目標	幼児期における運動遊びの重要性や、指導・支援の在り方、環境設定について理解を深める。また、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法や保育実践の評価方法について学びを深めることを目的とする。						
授業の方法	主に講義形式で行う。プリントを基に進める。また、授業後半では、知識をもとに指導案作成、模擬授業を行う。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	授業後講義資料をよく読み復習しすることが望ましい。(10分程度) また、指導案作成、模擬授業準備のための時間が相当時間必要となる。						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	幼児期の教育の基本①	9	模擬指導案作成①				
2	幼児期の教育の基本②	10	模擬指導案作成②				
3	保育方法の基本①環境を通して行う教育	11	模擬授業①				
4	保育方法の基本②遊びを通しての総合的な指導	12	模擬授業②				
5	保育実践の現状と課題① 「海外の保育方法需要と展開」	13	模擬授業③（評価・振り返り）				
6	保育実践の現状と課題② 「保育形態の種類と活用法」	14	情報機器の活用と課題「視聴覚機材の活用方法」				
7	保育内容の指導方法①「規範意識の芽生え育成」	15	小学校との連携「学びの連続性と連携」				
8	保育内容の指導方法② 「共同的な遊びの展開と援助」						
教科書・参考文献	参考資料等 幼児教育指導方法 放送大学教育振興会						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	単元ごとのレポートの内容についてフィードバックを行う。また、単元ごとの講義の要点を再確認し理解を深める。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当科目である。						
成績評価の方法及び基準	レポート(20%)、授業内の課題(40%)、発表内容(40%)を基に、総合的に評価を行い、60点以上で合格とする。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
保育内容指導Ⅱ（人間関係・言葉・表現）		専門教育 科 目	演 習	2	S316		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
小 山 貴 博		2	前 期	選 択	幼 ◎	保 ◎	社 ◎
授業概要	1. 幼稚園教育要領にて提示されている幼稚園教育の基本を理解する。 2. 5領域は独立したものではなく、それぞれ往還しており、その中で子どもが育つことを理解する。 3. 5領域を往還させたかたちでの保育指導法について学ぶ。						
到達目標	本講義を通して、将来幼稚園教育の現場に従事した際に、(1)子どもの発達に配慮した、望ましい人間関係を構築するのに適切な援助技術の方法、(2)子どもが成長とともに、言葉を獲得するうえで、適切な保育内容の指導方法、(3)子どもが、遊びを通じたかたちで言葉、表現を獲得するための指導法。 以上、3点が本講義履修によって、習得が期待される目標である。						
授業の方法	基本的に、課題を提示し、アクティブラーニング形式で行う。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	教科書について各回 30 分程度の予習が必要、また、演習形式の講義時に提示する課題においては、十分な復習、事前準備を要する。						
履修条件	特にありません。						
授 業 計 画							
1	幼稚園教育要領と求められる保育者像	9	人間関係と子どもの発達 (1)				
2	言葉を持たない世界の疑似体験-ジェスチャーゲームを事例として-	10	人間関係と子どもの発達 (2)				
3	言葉と表現-イス取りゲームを事例として-	11	人間関係と子どもの発達 (3)				
4	言葉の重要性-伝言ゲームを事例として-	12	望ましい保育内容指導法(1)-「言葉」の獲得に配慮したかたちでの指導法-				
5	言葉と人間関係-他人を紹介するワークを事例として-	13	望ましい保育内容指導法(2)-子どもの「人間関係」に配慮したかたちでの指導法-				
6	子どもの発達に応答した創造的な表現 (1)	14	望ましい保育内容指導法(3)-望ましい環境構成に鑑みた指導案の作成-				
7	子どもの発達に応答した創造的な表現 (2)	15	模擬保育の実施と、講義のふりかえり				
8	子どもの発達に応答した創造的な表現 (3)						
教科書・参考文献	「現代保育論」現代保育問題研究会編 2018 年 一藝社						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	後期総括時に、レポートのフィードバックを行なう。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	筆記試験によって判定を行う。なお 60 点以上で合格とする。						
実務経験と担当 科目内容との関連							

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
教育実習事前事後指導		専門教育 科 目	演 習	※	S407		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
乳 井 英 雄		2	前 期	選 択	幼 ◎	保	社
授業概要	①教育実習の目的 ②教育実習への心構え ③実習日誌について ④指導案について ⑤自己研究						
到達目標	教育実習の目的、内容、心構え等を理解できるようになる。また、実習日誌や指導案等の準備、作成が出来るようになる。						
授業の方法	補助教材を利用して、講義形式と演習形式を織り交ぜる。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	文献を一読すること(30分)。講義内容を振り返り疑問点を考える(30分)。						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	指導案の理解Ⅰ				
2	教育実習の目的と内容Ⅰ	10	指導案の理解Ⅱ				
3	教育実習の目的と内容Ⅱ	11	指導案の理解Ⅲ				
4	教育実習の目的と内容Ⅲ	12	実習に向けての自己研究Ⅰ				
5	心構えと準備Ⅰ	13	実習に向けての自己研究Ⅱ				
6	心構えと準備Ⅱ	14	実習中指導の理解				
7	実習日誌の理解Ⅰ	15	実習事後指導の理解				
8	実習日誌の理解Ⅱ						
教科書・参考文献	幼稚園教育要領 教育実習ハンドブック						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	レポートは授業内で返却して解説する。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	教育実習の単位と連携させており、教育実習が不可の場合は、この単位も認定されない。 ※1年次、教育実習事前事後指導と合わせて1単位となる。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
教 育 実 習		専門教育 科 目	実 習	3	S408		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
実習担当者		2	集 中	選 択	幼	保	社
					◎		
授業概要	幼稚園及び認定こども園において、学内で学習した専門分野での理論や技術に基づき、教育実践を進め、幼児理解、指導計画の立案、及び環境構成・援助の実際についての学びを深める。又、職務の実際に触れ教師(保育者)としての使命感や社会的責任意識を高めるとともに、まとめの学習に意欲をもち、進路選択及び決定に生かしていく。						
到達目標	子どもたちとのふれあいを通して教師(保育者)としての喜びと誇りを体感し、理論の深化及び実践力の向上のための学習を継続して意欲的に行う。						
授業の方法							
予習・復習等 及び必要時間(分)	毎日の振り返りと記録2時間程度と準備に1時間程度必要						
履修条件	教育実習（本実習）は、実習前において開講している学則必修科目および幼稚園教諭二種免許状取得科目に関して未履得がある場合、または修得見込みが立たない場合は教育実習（本実習）を履修することはできない。 学科科目の単位修得状況が不良の場合、本実習の履修が不許可になる場合がある。						
授 業 計 画							
まず、1年次に本学付属幼稚園にて1週間の基本実習(こども園・幼稚園体験活動)を行います（1単位） 次に2年次に市内または地方の幼稚園にて3週間の本実習を行います（3単位） なお、基準実習を終了していない学生は、本実習を履修することはできません。							
教科書・参考文献							
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	園からの評価表と実習日誌、レポートを用い、事後指導のための面談を行います。						
卒業認定・学位授 与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「3」に該当する科目である。						
成績評価の方法及 び基準	成績評価は、実習園からの評価、実習に対する姿勢、実習日誌、レポート等により総合的に評価して、単位を認定します。						
実務経験と担当科 目内容との関連							

科 目 名			分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
保育・教職実践演習(幼稚園)			専門教育 科 目	演 習	2	S410		
担当教員氏名			年 次	開講期	卒業要件	資 格		
毛 利 悦 子			2	後 期	選 択	幼	保	社
						◎	◎	
授業概要	現代における幼児教育の課題を分析し解決の方策を探求する。また実習を振り返り、その成果及び反省を生かし、協働で研究保育を行う。							
到達目標	自己課題に基づき、現代における幼児教育の課題とその方策について小論文にまとめる。子どもたちの意欲を喚起し、主体的な活動を促す保育実践を行う。							
授業の方法	教科書、担当教員作成資料、関連ビデオ等を用いた講義を行う。グループに分かれ、研究保育の指導計画立案、教材準備、環境構成をしこども園で保育実践を行う。							
予習・復習等 及び必要時間(分)	小論文作成に当たってはテーマに応じた資料収集・研究に相当時間が必要。 研究保育実施に当たっては活動内容・教材研究に計画的な運営が必要になる。							
履修条件	特にありません。							
授 業 計 画								
1	ガイダンス 幼児教育の現状と課題	16	研究保育の準備(グループ活動) ①指導計画立案					
2	幼稚園教育実習を振り返る①グループ協議と発表	17	幼児教育の課題の探求と解決の方策⑥					
3	幼児教育の課題の探求と解決の方策①	18	研究保育の準備(グループ活動)②内容及び教材研究					
4	幼稚園教育実習を振り返る②個人発表と協議	19	幼児教育の課題の探求と解決の方策⑦					
5	幼児教育の課題の探求と解決の方策②	20	研究保育の準備(グループ活動)③内容及び教材研究					
6	幼稚園教育実習を振り返る③個人発表と協議	21	研究保育の準備(グループ活動)④教材準備・環境構成					
7	幼児教育の課題の探求と解決の方策③	22	研究保育の準備(グループ活動)⑤教材準備・環境構成					
8	幼稚園教育実習を振り返る④個人発表と協議	23	研究保育の準備(グループ活動)⑥教材準備・環境構成					
9	幼児教育の課題の探求と解決の方策④	24	研究保育の準備(グループ活動)⑦教材準備・環境構成					
10	幼稚園教育実習を振り返る⑤個人発表と協議	25	研究保育の準備(グループ活動)⑧教材準備・環境構成					
11	幼児教育の課題の探求と解決の方策⑤	26	研究保育の準備(グループ活動)⑨教材準備・環境構成					
12	幼稚園教育実習を振り返る⑥個人発表と協議	27	研究保育の準備(グループ活動)⑩教材準備・環境構成					
13	函館市内幼児教育施設見学と子どもとのふれあい	28	研究保育の準備(グループ活動)⑪教材準備・環境構成					
14	函館市内幼児教育施設見学と特別講義	29	研究保育実施					
15	函館市内幼児教育施設長の特別講義	30	研究保育実施					
教科書・参考文献	「遊びの指導」財団法人幼少年研究所 同文書院 「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針解説」「保育現場におけるリスクマネジメント」監修 日本保育協会 中法規株式会社							
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	小論文について。では、テーマ設定、関連資料の紹介、内容等を個別に指導を行う。 研究保育においては、経過の中で具体的な指導・助言を行う。」							
卒業認定・学位授 与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」「2」「3」に該当する科目である。							
成績評価の方法及 び基準	小論文(30%) レポート(30%) 演習「研究授業」(40%)							
実務経験と担当科 目内容との関連	前職(幼稚園教諭・教頭・園長)時の論文・研究発表資料等を資料及び教材として使用する。 又、経験で得た事例や内容を伝える。							

科 目 名			分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
ピアノ表現法Ⅱ			専門教育 科 目	演 習	1	S319		
担当教員氏名			年 次	開講期	卒業要件	資 格		
相原千鶴子・斎藤佳子・谷藤有紀・山本和生			2	通 年	選 択	幼	保	社
授業概要			ピアノ表現法Ⅰに続き、ピアノ技術の質の向上を目的とする科目として位置づける。 保育士として必要なピアノ技術の更なる向上と自らの教職への適性を検討し、意欲を高める。					
到達目標			子どもたちの表現力豊かな感性を育める音楽環境を、子供たちと一緒に楽しめる保育者を目指す。					
授業の方法			教材を用い、個人レッスン形式で行い、音楽の基礎を修得させる。					
予習・復習等 及び必要時間(分)			毎日の予習、復習を習慣づけるようにする必要がある。					
履修条件			特にありません					
授 業 計 画								
1	ガイダンス・シラバス説明		16	6度・3度の重音No.77・No.78				
2	ハ長調の音階No.55・No.56		17	3連符No.79・No.80				
3	高い音の練習（その1）No.57・低い音の練習No.58		18	へ長調よりハ長調への転調No.81				
4	へ長調のの音階No.59・No.60		19	3度の重音と8度の跳躍No.81				
5	8vaの練習・ト長調の音階No.62・No.63		20	弱起の曲No.83・No.84				
6	高い音の練習（その2）No.64・No.65		21	二長調の主要三和音No.85・二短調主要三和音				
7	高い音の練習（その2）No.66・No.67		22	装飾音No.87・No.88				
8	臨時記号No.68・半音階No.69		23	装飾音No.89・No.90				
9	16分音符のリズムNo.70・No.71・No.72		24	複付点音符No.91・No.92				
10	イ短調の主要三和音No.73・No.74		25	複付点音符No.93・No.94				
11	イ短調の主要三和音No.75・No.76		26	補充教材 March				
12	課題の練習①		27	課題の練習①				
13	課題の練習②		28	課題の練習②				
14	課題の練習③		29	課題の練習③				
15	課題の練習・小テスト		30	課題の練習・小テスト				
教科書・参考文献			教職課程のための大学ピアノ教本					
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法			個人レッスンとなるため、個々の修得度合いに合わせて課題調整等々のフィードバックを行う。					
卒業認定・学位授 与の方針との関連			当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目である。					
成績評価の方法及 び基準			小テスト2回各50点とし、60点以上を合格とする					
実務経験と担当科 目内容との関連								

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
こどもの造形と遊び		コ ー ス 選択科目	演 習	1	S501		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
神 林 眞 里		2	前 期	選 択	幼	保	社
授業概要		本授業では、子ども達が造形表現の楽しさを味わい感性豊かに成長できるよう、豊かな造形活動へと導く方法を身につける。また、学生自身が実技体験を通して自己の感性を磨き、体感する。					
到達目標		○造形遊びを実践することで、子どもなりの表現遊びを共感し豊かな活動へとつなげるよう、導きの方法を習得する。○素材研究をしながら効果的な準備と提供方法、工夫の力、応用力を身につける。					
授業の方法		自分なりのアイデアや工夫したことを可視化できるよう、様々な素材や道具を使用し造形遊びの実践を行う。					
予習・復習等 及び必要時間(分)		課題作品については、創意工夫のための制作準備が必要。(30分程度)					
履修条件		特にありません					
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	粘土遊び ② ごちそうづくり				
2	生活に根差した造形遊びとモノとの出会い	10	粘土遊び ③ ごちそうづくり				
3	保育における造形遊びの役割	11	つくる遊びの実践 ① 自然物と身近な素材				
4	かく遊びの実践 ① 絵の具	12	つくる遊びの実践 ② 自然物と身近な素材				
5	かく遊びの実践 ② 絵の具がなかったら	13	つくる遊びの実践 ① 身近な素材と金属				
6	はる遊びの実践 ① 紙	14	つくる遊びの実践 ② 身近な素材と金属				
7	はる遊びの実践 ② 装飾	15	評価の保障、振り返り				
8	粘土遊び ① ごちそうづくり						
教科書・参考文献		「保育のなかのアート」(小学館) 「かく・つくる・造形遊び」(サクラクレパス) 他					
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法		制作した作品や教材に関して振り返りシートに記入提出し、確認と評価を行う。また、実際に保育現場や実習先で実践し、実践経過の子ども達の様子や自己の取り組みについて自己評価をして振り返る。					
卒業認定・学位授与の方針との関連		当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目である。					
成績評価の方法及び基準		保育者を目指す者として意欲的な態度で作品制作を行っていたのか、また子ども達の遊びを想定し創意工夫がされたものであるか、制作した作品と振り返りシート、実践レポートを総合的に判断する。(提出作品 70%, レポート 20%, 振り返りシート 10%)					
実務経験と担当科目内容との関連							

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
こどもの音楽と遊び		コ ー ス 選択科目	演 習	1	S502		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
こども学科担当教員		2	前 期	選 択	幼	保	社
授業概要	本講義は幼児音楽の知識(日本の歌、外国の歌)を深め、教職の適正を検討する。						
到達目標	教職への意欲を高め、より音楽的表現力を体得						
授業の方法	色々なジャンルの教科書を使用し、局の表現を学生自ら進めていく。 授業内テストを受験し学位認定。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	色々なジャンルの教科書を学生自ら、予習・復習が(30分程度)必要。						
履修条件	特にありません。						
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	発声、指遊びの歌(のぼるよコアラ)世界の遊び歌より (No.29)歌体操(まりと殿様)				
2	発声(ボールで)、指遊び歌(いちにのさん) 世界の遊び歌より (No.1. 3. 5)	10	発声、指遊びの歌(のぼるよコアラ)世界の遊び歌より (No.31. 34)歌体操(まりと殿様)				
3	発声(ボールで)、指遊び歌(いちにのさん) 世界の遊び歌より (No.6. 7. 8)	11	発声、指遊びの歌(のぼるよコアラ)世界の遊び歌より (No.35. 37)歌体操(カチューシャ)				
4	発声(ボールで)、指遊び歌(ピクニック) 世界の遊び歌より (No.9. 10. 12)	12	発声、指遊びのうた(鬼のパンツ)世界の遊び歌より (No.38. 39)歌体操(カチューシャ)				
5	発声(ボールで)、指遊び歌(ピクニック) 世界の遊び歌より (No.14. 15. 17)	13	発声、指遊びのうた(鬼のパンツ)世界の遊び歌より (No.39. 40)歌体操(月の砂漠)				
6	発声(腹筋・プレス注意して)、指遊び歌 (ピクニック)世界の遊び歌より (No.18. 19. 20)	14	発声、指遊びのうた(鬼のパンツ)世界の遊び歌より (No.39. 40)歌体操(月の砂漠)				
7	発声(腹筋・プレスに注意して)、指遊び歌(ダイ ヘンシン)世界の遊び歌より (No.21. 22. 24)	15	発声、指遊びのうた(鬼のパンツ)) 歌体操(まりと殿様・カチューシャ・月の砂漠)				
8	発声(腹筋・プレスに注意して)、指遊び歌(ダイ ヘンシン)世界の遊び歌より (No.25. 26. 28)						
教科書・参考文献	資料を配布						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	授業内の小テストによる個々の確認が理解されているか表現されているか確認。						
卒業認定・学位授 与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目である。						
成績評価の方法及 び基準	定期試験(100%) 60%以上で合格						
実務経験と担当科 目内容との関連							

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
こどもの健康と遊び		コ ー ス 選択科目	演 習	1	S503		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
池 田 隼		2	後 期	選 択	幼	保	社
授業概要	健康教育の重要性や必要性の理解を深め、乳幼児が自発的に活動することのできる環境構成を構成する力を身につけると共に、運動遊びの安全な援助法や指導法を学ぶ。						
到達目標	運動遊びの計画・実践・評価を行い、実践の評価視点を身につけると共に、子どもたちが夢中になって遊ぶ環境の設定について実践を通して学ぶことを目的とする。						
授業の方法	運動遊びの計画を立て模擬保育を行う。また、他者の模擬保育を幼児役として参加し、模擬授業の評価を行う。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	設定保育の指導案作成の提出、設定保育の授業準備を行うこと。(2 時間程度) 実践の反省・設定保育の評価を集計して次の講義までに提出する。(1 時間程度)						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	発表① 3 歳 (リレー・走運動・ボール遊び)				
2	発表① 3 歳 (リレー・走運動・ボール遊び)	10	発表② 3 歳 (縄跳び・マット遊び・鬼遊び)				
3	発表② 3 歳 (縄跳び・マット遊び・鬼遊び)	11	発表③ 4 歳 (リレー・走運動・ボール遊び)				
4	発表③ 4 歳 (リレー・走運動・ボール遊び)	12	発表④ 4 歳 (縄跳び・マット遊び・鬼遊び)				
5	発表④ 4 歳 (縄跳び・マット遊び・鬼遊び)	13	発表⑤ 5 歳 (リレー・走運動・ボール遊び)				
6	発表⑤ 5 歳 (リレー・走運動・ボール遊び)	14	発表⑥ 5 歳 (縄跳び・マット遊び・鬼遊び)				
7	発表⑥ 5 歳 (縄跳び・マット遊び・鬼遊び)	15	発表⑦ 異年齢あそび ・まとめ				
8	発表⑦ 異年齢あそび						
教科書・参考文献							
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	模擬保育について、個別にフィードバックを行い、実践の振り返りを行う。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	発表 40%・指導案 40%・レポート 20%(講義終了後に毎時のレポート提出を行う)を基に総合的に評価を行い 60 点以上で合格とする。						
実務経験と担当科目 内容との関連							

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
社会福祉法制		コ ー ス 選択科目	講 義	2	S601		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
小 山 貴 博		2	前 期	選 択	幼	保	社
							◎
授業概要	社会福祉関連法案の理解と、現状。各種社会福祉政策の理解。						
到達目標	本講義では、福祉専門職が知識として持っておくべき、人の生活の状況や社会の状況を理解する。その上で、社会福祉に関する各種の法制度について具体的に理解する。						
授業の方法	講義形式で行う。筆記試験の受験が単位認定の必須条件となる。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	各回の受講後には、講義内容を復習し、必要に応じて、各種統計資料や関連法の原文等を参照すること。						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	障害者自立支援制度の基本としくみ				
2	生活と社会福祉①	10	障害者自立支援制度にかかわる組織				
3	生活と社会福祉②	11	権利擁護に関わる諸制度				
4	社会保障制度の基本と歴史	12	保健医療にかかわる諸施策・諸制度				
5	社会保障制度のしくみ	13	生活を支える諸制度				
6	介護保険制度の基本としくみ①	14	講義内容の振り返り①				
7	介護保険制度の基本としくみ②	15	講義内容の振り返り②				
8	介護保険制度におけるそれぞれの役割						
教科書・参考文献	適宜、資料を配布する						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	筆記試験試験終了後、フィードバックを行う。						
卒業認定・学位授 与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「3」に該当する科目である。						
成績評価の方法及 び基準	筆記試験を実施する。なお、60 点以上で合格とする。						
実務経験と担当科 目内容との関連							

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
ボランティア活動論		コ ー ス 選択科目	講 義	2	S602		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
渡 谷 能 孝		2	後 期	選 択	幼	保	社
授業概要		ボランティアの歴史や実施体制、現状の課題から今後について学習し、特定の専門分野に偏らない視点や論理性を身に付けることで幅広い学識を備えます。					
到達目標		保育者として幅広い知識を持って資質向上を図るとともに、ボランティアに対する考え方に新たな価値観に気づき、地域活動に貢献できる奉仕の心と力を身につけることをねらいとします。					
授業の方法		スライド、映像を用いた形式で授業を行うとともに、社会におけるボランティア課題についてグループディスカッションを行う。また、ボランティアで役立てられる演習を実施する。					
予習・復習等 及び必要時間(分)		講義終了時に、次回の講義に向けた予習課題を出します（20分程度）。 授業において配布した資料を再確認する（15分程度）。					
履修条件		特にありません					
授 業 計 画							
1	ガイダンス・ボランティアの5原則		9	聴覚障害とボランティア			
2	ボランティアの意味・始まり		10	視覚障害とボランティアⅠ			
3	ボランティアと環境課題		11	視覚障害とボランティアⅡ			
4	ボランティアと少子高齢社会		12	車椅子とボランティアⅠ			
5	ボランティアの活動形態		13	車椅子とボランティアⅡ			
6	ボランティア課題（グループディスカッション）		14	ボランティア活動のこれから			
7	ボランティア課題とNPO		15	講義総括			
8	有償性ボランティア						
教科書・参考文献		講義内で随時紹介					
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法		講義内において課題の解説をした上で、各々の理解度を再確認する。					
卒業認定・学位授 与の方針との関連		当該学科の学位の卒業認定・授与の方針「3」に該当する科目である。					
成績評価の方法及 び基準		提出課題 30%・レポート 70%による総合評価を原則とし、授業の到達目標の達成度合いを含めて総合的に判断して評価します。					
実務経験と担当科 目内容との関連							

科 目 名			分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
福祉住環境コーディネーターⅠ			コ ー ス 選択科目	演 習	1	S603		
担当教員氏名			年 次	開講期	卒業要件	資 格		
渡 谷 能 孝			2	前 期	選 択	幼	保	社
授業概要			少子高齢社会から住環境整備の重要性、必要性を理解し、住環境整備に関する知識を身に付ける。また、各専門職やご家族の調整をし、安心・安全・快適な住まい福祉社会の観点から住環境に対する理解を深める。					
到達目標			多角的な支援のできる保育者として、高齢者、障がい者、こどもが安心して生活することのできる暮らしやすい住宅環境について理解することをねらいとする。 福祉住環境コーディネーター3級取得を目指す。					
授業の方法			テキスト、スライド、映像を用いた形式で授業を行い、授業内容の確認を含めた福祉住環境コーディネーター3級の練習問題を実施する。 自分自身の住環境から発見できる課題について考え、課題解決に向けたグループワークを実施する。					
予習・復習等 及び必要時間(分)			教科書を読んだ事前学習を行うこと（15分程度）。 授業内で実施した練習問題から、出題の要点と傾向の確認をすること（20分程度）。					
履修条件			特にありません					
授 業 計 画								
1	ガイダンス・福祉住環境コーディネーターとは		9	生活福祉用具				
2	現在の高齢社会と福祉		10	住まい整備のための基本技術				
3	福祉住環境の重要性・必要性		11	福祉住環境整備（屋内外の移動）				
4	介護保険制度についてⅠ		12	福祉住環境整備（排泄・整容・入浴）				
5	介護保険制度についてⅡ		13	福祉住環境整備（清掃・調理・就寝）				
6	高齢者の健康と自立Ⅰ		14	安心できる住生活（グループワーク）				
7	高齢者の健康と自立Ⅱ		15	安心できるまちづくり				
8	バリアフリーとユニバーサルデザイン							
教科書・参考文献			改訂5版 福祉住環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト					
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法			練習問題の解答と解説を毎回実施し、各々の理解度を高める。					
卒業認定・学位授与の方針との関連			当該学科の卒業認定・学位授与の方針「3」に該当する科目である。					
成績評価の方法及び基準			授業内筆記試験（100%）を原則とし、グループワークの実施状況から、授業の到達目標の達成度合いを含めて総合的に判断して評価します。					
実務経験と担当科目内容との関連								

科 目 名			分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
教育カウンセリング心理学			コ ー ス 選択科目	演 習	1	S701		
担当教員氏名			年 次	開講期	卒業要件	資 格		
阿 部 千 春			2	前 期	選 択	幼	保	社
授業概要			教育領域における心理的問題、個と集団との関係などについて教科書や体験を通して学びます。					
到達目標			教育カウンセリング心理学に関する基本的な知識と技法を習得することを目的とします。					
授業の方法			教科書と講義資料を用いて講義形式で行い、グループワークやグループディスカッションなどの演習も行います。授業内で行う試験を受験することとレポートを提出することが単位認定の必須条件となります。					
予習・復習等 及び必要時間(分)			授業後は、講義資料や関連する書籍を読むなどして、復習してください。(30分程度)					
履修条件			特にありません					
授 業 計 画								
1	ガイダンス		9	アドラー心理学				
2	個別面接の技法モデル		10	よりよい学習者を育てる				
3	個別面接の諸形態と技法		11	事例研究① 事例報告の書き方				
4	ソーシャルスキル教育①		12	事例研究② ケースカンファレンス				
5	ソーシャルスキル教育②		13	学級集団のアセスメント				
6	ストレスマネジメント教育		14	学級集団のコンサルテーション				
7	認知行動療法①		15	講義総括				
8	認知行動療法②							
教科書・参考文献			教科書：NP0 日本教育カウンセラー協会編「新版 教育カウンセラー標準テキスト 中級編」「新版 教育カウンセラー標準テキスト 初級編」図書文化					
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法			テスト解説を行うことで、誤答問題の見直しができるようにします。また、具体的な学習方法について提示します。					
卒業認定・学位授与の方針との関連			当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目です。					
成績評価の方法及び基準			成績評価は、授業内試験(50%)、レポート(40%)、授業後に提出する感想カード(10%)によって総合的に評価し、単位を認定します。					
実務経験と担当科目内容との関連								

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
セラピー概論		コ ー ス 選択科目	講 義	2	S702		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
阿 部 千 春		2	前 期	選 択	幼	保	社
授業概要	カウンセリング心理学におけるさまざまな援助方法の理論と実際を学び、それぞれの理論・技法を実際の保育・幼児教育の現場でどのように役立てられるかについて検討することを目的とします						
到達目標	カウンセリング心理学におけるさまざまな援助方法の理論や技法についての基礎的な知識を習得することをめざします。						
授業の方法	教科書と講義資料を用い、講義を行った後で、演習（ペアワークやグループワークなど）を行います。授業内で行う試験を受験することが単位認定の必須条件となります。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	次の授業で取り上げるテーマについて教科書を読んで予習してください。（20分程度） 教科書の内容が教育カウンセラー補の試験範囲となりますので、授業後は十分に復習してください。（30分程度）						
履修条件	特にありません						
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	ブリーフ・セラピー				
2	精神分析理論	10	家族療法				
3	自己理論①	11	表現療法①				
4	自己理論②	12	表現療法②				
5	ゲシュタルト療法	13	箱庭療法				
6	論理療法	14	自律訓練法				
7	交流分析	15	講義総括				
8	行動療法						
教科書・参考文献	教科書：NPO 日本教育カウンセラー協会編「新版 教育カウンセラー標準テキスト 初級編」「新版 教育カウンセラー標準テキスト 中級編」図書文化 参考文献：長尾博著「心理・精神療法ワークブック」誠信書房						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	テスト解説を行うことで、誤答問題の見直しができるようにします。また、具体的な学習方法について提示します。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目です。						
成績評価の方法及び基準	成績評価は、授業内試験（80%）、授業後に提出する感想カード（20%）によって総合的に評価し、単位を認定します。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科 目 名			分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
保育心理演習			コ ー ス 選択科目	演 習	1	S703		
担当教員氏名			年 次	開講期	卒業要件	資 格		
阿 部 千 春			2	前 期	選 択	幼	保	社
授業概要			保育・幼児教育の現場で出会う心理的な問題を取り上げ、それらの理解のしかたと対応方法について検討します。					
到達目標			具体的な事例を通して、保育実践に生かせる専門的知識と技術を習得することを目的とします。					
授業の方法			講義資料を用い、講義を行った後で、グループワークやグループディスカッションなどの演習を行います。また、グループワークによる事例検討を3回行います。授業内で行う試験を受験することが単位認定の必須条件となります。					
予習・復習等 及び必要時間(分)			授業後は、講義資料や関連する書籍を読むなどして、復習してください。(20分程度)					
履修条件			特にありません					
授 業 計 画								
1	ガイダンス		9	生活習慣について				
2	乳幼児期における心理的特性とその対応		10	事例検討（生活習慣について）				
3	児童期における心理的特性とその対応		11	言葉の遅れについて				
4	子どもの心の問題と保育・教育相談①		12	事例検討（言葉の遅れについて）				
5	子どもの心の問題と保育・教育相談②		13	ソーシャルスキルについて				
6	アセスメントの基礎		14	事例検討（ソーシャルスキルについて）				
7	事例検討の方法①		15	講義総括				
8	事例検討の方法②							
教科書・参考文献			教科書：なし、参考文献：藤原義博監修「保育士のための気になる行動から読み解く子ども支援ガイド」学苑社					
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法			テスト解説を行うことで、誤答問題の見直しができるようにします。また、具体的な学習方法について提示します。					
卒業認定・学位授与の方針との関連			当該学科の卒業認定・学位授与の方針「1」に該当する科目です。					
成績評価の方法及び基準			成績評価は、授業内試験（80%）、授業後に提出する感想カード（20%）によって総合的に評価し、単位を認定します。					
実務経験と担当科目内容との関連								

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
幼児総合研究		自由選択 科 目	演 習	2	F101		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
福島 憲成 ・ 山崎 理恵子		1・2	集中	選 択	幼	保	社
授業概要		運動遊びの実践を通し、運動の楽しさやダンスの特性を踏まえた指導・援助方法などについて実践を通して学ぶ。					
到達目標		運動遊びの実践を通して、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法や保育実践の評価方法について学びを深めることを目的とし、舞台発表を体験する。					
授業の方法		主に実技形式で行う。運動遊びの実践を通し、運動することの楽しさや運動の特性を踏まえた指導・援助方法など実践を通して学習する。					
予習・復習等 及び必要時間(分)		創作ダンスの振り作成案などの予習が必要である。(2時間程度)					
履修条件		特にありません。					
授 業 計 画							
1	表現遊び（ダンス）基礎的な動き		9	表現遊び（ダンス）⑧			
2	表現遊び（ダンス）基礎的な動き		10	表現遊び（ダンス）⑨			
3	表現遊び（ダンス）②		11	表現遊び（ダンス）⑩			
4	表現遊び（ダンス）③		12	表現遊び（ダンス）⑪			
5	表現遊び（ダンス）④		13	表現遊び（ダンス）⑫			
6	表現遊び（ダンス）⑤		14	表現遊び（ダンス）⑬			
7	表現遊び（ダンス）⑥		15	発表			
8	表現遊び（ダンス）⑦						
教科書・参考文献							
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法		単元ごとにフィードバックを行う。要点を再確認した後、遊びやねらいに応じた指導・援助方法について理解を深める。					
卒業認定・学位授与の方針との関連		当該学科の卒業認定・学位授与の方針「2」に該当する科目である。					
成績評価の方法及び基準		実技、その他を総合的に評価し、60点以上で合格とし、1年前期の評価と合わせて総合評価となる。					
実務経験と担当科目内容との関連							

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
国際保育理解		自由選択 科 目	演 習	1	F102		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
こども学科担当教員		1・2	集 中	選 択	幼	保	社
授業概要	世界がグローバル化している時代にあって、私たちがより平和な、質の高い国際的交流協力関係を築いていくためには、言語、文化、歴史の理解はもとより、国際的な交流や協力の意義、それに内在する諸問題を深く理解していかなければならない。この講座は、函館市と姉妹都市関係にある韓国高陽市への研修旅行を軸にして韓国の幼稚園・保育園訪問・見学・交流を行う。						
到達目標	アジアから世界へと広く繋がっている世界を体験的に学ぶことと国際保育の理解を目標とする。						
授業の方法	韓国研修旅行の事前研修（講義）と韓国研修旅行により行う。						
予習・復習等 及び必要時間(分)	研修旅行を充実したものにするためには、十分な事前学習が必要で、事前研究前に韓国文化を調べるなどの1時間ほどの事前学習が必要。						
履修条件	学年・学校は問わず、コンソーシアム函館に加盟している学校の単位互換として、函館の他短大・大学の学生の参加も可能。						
授 業 計 画							
1	講義 オリエンテーション	9	研修旅行				
2	事前研修 韓国語	10	研修旅行				
3	事前研修 日韓の歴史的関係	11	研修旅行				
4	事前研修 韓国の衣食住文化	12	研修旅行				
5	事前研修 海外旅行の準備・注意点	13	研修旅行				
6	研修旅行	14	研修旅行				
7	研修旅行	15	研修旅行のまとめ				
8	研修旅行						
教科書・参考文献	なし						
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法	研修の準備段階において、浴衣の着付けや語学の勉強が含まれる。着付けにおいては、できた点や改善点を、語学においては復習内容と成果を事前研修時間内でコメントとしてフィードバックする。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	当該学科の卒業認定・学位の授与の方針の「2」「3」に該当する科目である。						
成績評価の方法及び基準	事前研修への参加状況 40%、国際交流の意欲および現地交流参加度 30%、レポート 30%、による総合評価。						
実務経験と担当科目内容との関連							

科 目 名		分 類	授業区分	単 位	ナンバリング		
ウィンタースポーツ		自由選択 科 目	演 習	1	F103		
担当教員氏名		年 次	開講期	卒業要件	資 格		
中村 哲二・渡谷 能孝		2	集 中	選 択	幼	保	社
授業概要		スポーツが身体に与える影響を正しく理解し、今後の生活に役立てると共に生涯スポーツへの実践力を培うことをねらいとする。					
到達目標		スポーツが身体に与える影響を正しく理解し、今後の生活に役立てると共に生涯スポーツへの実践力を培うことをねらいとする。					
授業の方法		後期講義終了後、集中講義を行います。実施地は函館七飯スキー場。					
予習・復習等 及び必要時間(分)		特に無いが、用具の準備・整備・管理及び健康管理					
履修条件		特にありません					
授 業 計 画							
1	ガイダンス	9	ごくゆるい斜面での練習				
2	ウィンタースポーツの特性と学習計画	10	長い距離の滑走				
3	スキーの歴史、スノーボードの歴史	11	様々なリズムでの滑走				
4	ウィンタースポーツと安全	12	大まわり、中まわり、小まわり				
5	上達するための練習過程	13	技能に合ったスピード、斜面				
6	用具・用品についての基礎知識	14	ターンの質の向上				
7	用具・用品の取り扱い方	15	斜度、雪質などの状況に対応した滑り				
8	基本姿勢と基本動作の確認						
教科書・参考文献							
課題(レポート・テストを含む)に対する フィードバックの方法		当該学科の卒業認定・学位の授与の方針の「2」「3」に該当する科目である。					
卒業認定・学位授 与の方針との関連		授業内での評価100%（競技に取り組む姿勢や上達度）					
成績評価の方法及 び基準		最終日に総括として、担当教員よりまとめがあります。					
実務経験と担当科 目内容との関連							

オフィスアワーについて(2022 年度)

オフィスアワーとは

オフィスアワーは、学生が授業のことや学校生活のことなどについて、質問・相談あるいは個人的に指導を受けるために設定された時間です。充実したキャンパスライフを過ごすために、有効に活用してください。

なお、オフィスアワーに設定されている時間であっても、会議や出張等で不在になる場合は各研究室前に掲示します。

また、オフィスアワー時間帯以外でも質問・相談等を受けますので、各教員の都合を確認してください。

オフィスアワーの曜日・時間

教 員 氏 名	曜 日	時 間 帯
福 島 憲 成	木曜日	16:25~17:25
藤 野 明 信	水曜日	16:25~17:25
江 端 深 雪	金曜日	16:25~17:25
神 林 眞 里	水曜日	16:25~17:25
乳 井 英 雄	水曜日	16:25~17:25
毛 利 悦 子	月曜日	16:25~17:25
山 田 陽 子	火曜日	16:25~17:25
渋 田 昌 士	月曜日	16:25~17:25
阿 部 千 春	木曜日	16:25~17:25
渡 谷 能 孝	月曜日	16:25~17:25
伊 藤 聡	月曜日	16:25~17:25
藤 村 敦	火曜日	16:25~17:25
濱 嶋 幸 司	水曜日	16:25~17:25
小 山 貴 博	木曜日	16:25~17:25
伊 藤 好 一	金曜日	16:25~17:25
池 田 隼	金曜日	16:25~17:25

※2022 年度オフィスアワーに変更がある場合は次年度配布いたします。

